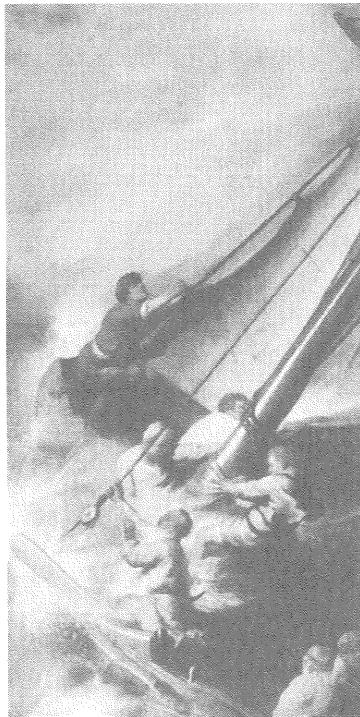


# 日本基督改革派教会史

途上にある教会 付録(年表・統計)



日本基督改革派教会  
歴史資料編纂委員会



# 年 表

改革派教会前史（1873年～1944年）

改革派教会本史（1945年～1975年）



# 日本キリスト改革派教会「途上にある教会」略年表

		西暦	和暦	事項
				改 革 派 教 會 前 史
嘉永六	一八五三	一八三七	天保八	六月二一八日アメリカ貿易船モリソン号日本人漂流民七名を乗せ、浦賀に入港したが、外国船打払令により砲撃を受け、退去。中国で日本布教を準備中の米国聖公会宣教師S・W・ウイリアムス、K・ギュツラフら同乗。七月鹿児島湾でも砲撃を受ける。K・ギュツラフ宣教師、シンガポールで約翰福音書の一部を和訳して出版する。
嘉永一	一八四〇	一八四〇	天保一一	浦上二番崩れ、四、五名の信徒捕らわれる。
弘化一	一八四四	一八四四	一八四四	三月フランス船、琉球に来航、カトリック・パリ宣教会A・フォルカード布教開始。
弘化三	一八四六	一八四六	一八四六	四月五日イギリス船、琉球に来航、イギリス海軍プロテスタント琉球宣教会B・J・ベツテルハイム、布教開始。医療を施すかたわら新約聖書四福音書の琉球語訳を完成。八年滞在し、数百人の求道者と三人の受洗者を得る。

					一八五四
					安政一
					安政二
					安政三
					安政四
一八六〇	一月一三日咸臨丸、米国訪問に出発。三月三日桜田門外の変、大老井伊直弼攘夷派の水戸藩士たる。	三月三日ペリー、再び来日し、日米和親条約締結（幕府下田・箱館開港を約束）。八月英國海軍提督ステルリングス来日、日英和親条約締結（長崎・箱館開港を約束）。鍋島藩老臣村田若狭守、長崎警衛中海上にてオランダ語の聖書を拾う。一二月二一日日露和親条約締結。	七月二一日米国総領事ハリス、下田に入港。九月浦上三番崩れ、八〇名の信徒捕らわれる。	六月一九日日米通商条約を勅許のないまま調印。七月一〇日日蘭、七月一一日日露、七月一八日日英、九月三日日仏通商条約を締結。居留地内の外人に信教の自由を許す。	五月二八日幕府、露・英・仏・蘭・米5国に神奈川・長崎・箱館で自由貿易を許可。米国聖公会、五月に宣教師J・リギンズ、六月にC・M・ウイリアムズを長崎に送り、長崎在留の外国人のために主日礼拝を守る。九月パリ外国宣教士ジラル仏総領事付司祭兼通訳として江戸に入る。一一月同司祭メルメ、函館に仮聖堂を建て、医療と語学の研修を行う。司祭プチジャン、横浜に入港、まもなく長崎に赴き活躍。一〇月、米国長老教会J・C・ヘボン博士（医学・法学）夫妻神奈川に、一一月米国オランダ改革派教会宣教師S・R・ブラウン、D・B・シモンズ博士（医学）が神奈川に到着。米国改革派教会宣教師G・F・フルベッキ、長崎に上陸し、幕府の斎美館、佐賀藩の致遠館で英語を教授。ヘボン博士、神奈川で施療所を開設するが、官憲の妨害によって閉鎖、一八六二年横浜に移住後、再度施療所を開き、貧しい患者の治療にあたる。
一八五六	安政五	一八五八	安政六	一八五九	一八五八
一八五九	安政六	一八五九	安政七	一八五九	一八五九
一八六〇					

							万延元
							に殺害さる。米国バプテスト自由伝道協会宣教師J・ゴーブル夫妻が神奈川に到着。ゴーブル
							はペリー来航時、宣教を目的に水兵として上陸。二月米国聖公会宣教師J・リギンズ病氣のため帰国。かわりに四月、E・ショミット博士（医学）が来日したが、健康を害し翌年帰国。
							五月ギリシア正教司祭ニコライ、函館のロシア領事館付司祭として来日。一月米国改革派教会宣教師J・H・バラ夫妻横浜に到着。
							七八六三
							七月薩英戦争。一〇月米国聖公会、長崎に礼拝堂を建築。同会教育宣教師ミス・ジャネット、文久三
							R・コノーヴァー、神奈川に到着したが、世情不安のため上海に戻る。米国長老教会宣教師D・タムソンが横浜に到着し、居留地のヘボン博士と協力。ヘボン博士は上海で準備の辞書『和英語林集成』発刊を監督。神奈川在留の宣教師ら横浜に移る。
							一八六四
							八月英米仏蘭四国連合艦隊、萩藩砲台と交戦。司祭プチジャン、旧教信徒の後裔を発見。ヘボン博士、初めてトラクトを発行する。「眞理易知」か。ヘボン夫人、横浜に女塾を開く。
							元治一
							一八六五
							一月二十四日長崎大浦天主堂献堂式。二十六聖殉教者堂と命名。
							慶応元
							米国改革派教会宣教師フルベッキ、ペンテコステの日に佐賀藩士村田若狭守政矩と綾部三左衛門に洗礼。
							一八六六
							米国改革派教会S・R・ブラウン、新約聖書翻訳中の原稿を自宅火災のため焼失。米国改革派教会J・H・バラ、米国長老教会D・タムソンと協力し、マタイによる福音書の翻訳を完了。
							慶応二
							一八七二年初めS・R・ブラウンとヘボンがこの原稿を改訂し、出版に備え、ヘボン博士が帰

一八六八	一月戊辰戦争。四月天皇、五箇条の誓文。九月天皇、江戸を東京とする詔書。米國長老教会宣教師E・コルネス夫妻が横浜に到着。文部省より「開成学校」に招聘されたが、一八七〇年汽船事故で死亡。
明治一	
一八六九	
明治二	
C・グリーン来日、阪神地方で伝道を開始。	米中にタムソンとブラウンが完成させた。一八七三年『馬太伝福音』として印刷。ヘボン夫人、女子学校を横浜に開く。七月浦上四番崩れ。潜伏キリストンが弾圧を受け、全国各地に送られ、六〇〇名を超える殉教者がいる。ヘボン博士、『和英語林集成』初版刊行。一一月將軍徳川慶喜、大政奉還。

米国長老教会宣教師C・カラゾルス、築地居留地を落札、夫人ジュリア、私塾A六番女学校を創設。一八七六年に新栄女学院と改称、さらに一八八九年桜井女学校と合併、女子学院となる。米国バプテスト自由伝道協会J・ゴーブル、新約聖書『摩太福音書<sup>マタイ</sup>』を翻訳、出版。改革派教会S・R・ブラウンと長老教会J・C・ヘボン博士は、マルコ・ヨハネの両福音書のヘボン訳を改訂し、翌年出版。熊本洋学校設立。肥後藩主から招聘を受け、米国改革派教会外国伝道局幹事を通じて、米国陸軍大尉ジェーンズが赴任した。三月アメリカン・ボード宣教師O・H・ギュリック夫妻、一二月、J・D・デビス夫妻来日し、神戸のミッショնに参加した。翌年J・C・ベリー博士（医学）の到着によつて宣教が強化された。八月、ギュリック夫妻、大阪に移動し、一〇月米国から来日した宣教師M・L・ゴルドン博士（医学）夫妻と協力し、伝道の基礎を築いた。ギュリックの日本語教師市川栄之助夫妻がキリスト教入信の疑いで逮捕監禁され、宣教師、アメリカ公使の尽力も功を奏さず、洗礼を希望した夫は翌年獄死、未信者の妻は釈放され、のち東京新桜田教会の会員となつた。六月米国婦人連合外国伝道協会婦人宣教師ミセス・メリーア・プライン、横浜に到着。米国聖公会宣教師A・R・モリス来日、大阪で宣教。九月新約聖書の翻訳を促進させるために各派の協議会が横浜で開催。「横浜翻訳委員会」が組織された。年末から横浜在住の外国人、翌年一月まで祈祷会。

三月一〇日最初のプロテスタント教会、横浜公会設立。バラ宣教師、押川方義、篠崎桂之助ら9名に洗礼。小川義綏を長老に、バラを仮牧師に選出。長老派タムソン、ヘボン、改革派バラ、プラウンらの友好的な協力によつて維持。英文名「The Church of Christ in Japan」(この)

日までのプロテスタント受洗者約二〇名) 五月米長老教会宣教師H・ルーミス夫妻、六月宣教師E・R・ミロル夫妻横浜に到着。九月第一回宣教師会議 長老派・改革派・組合派、聖公会、ユニオン・チャーチ代表ミツション・ホーム、横浜公会などの宣教師、代議員が集合。七月米國改革派宣教師キダー、神奈川県知事大江卓の援助により、女学校を伊勢山に開校。米國婦人連合外国伝道協会、一〇月婦人宣教師、ミセス・メリー・ライアン、ミセス・L・H・ピアソン、ミス・J・クロスビー、横浜に赴任、アメリカ・ミツション・ホーム(現・横浜共立学園)を設立。一二月一日、太陰暦を廃止、翌日をもって一八七三年(明治六)一月一日とした。

二月二十四日政府、キリストン禁制高札の撤去を決定。三月一日横浜公会バラ牧師、奥野昌綱に長老按手。米國改革派教会宣教師H・スタウト、長崎に宣教師宅で私塾を開き、ジエーンズ大尉の好意で校舎を建築。米國バプテスト伝道連合、自由伝道教会宣教師N・ブラウン、ゴーブルを迎えて入れ、三月二日横浜バプテスト教会を設立。ブラウン夫人、女子学校を開く。一〇月宣教師J・ホープ・アーサー夫妻来日。同年ゴーブル、ミツションとの関係を解除。九月米國長老派タムソン、東京に横浜公会の支会東京公会を設立。米國長老教会宣教師C・カラゾルス、築地にユニオン教会礼拝堂を建築し、東京第一長老教会を設立。また築地大学校を創立。一八七五年に廃校となるが、キリスト教文書伝道に功績を残す。米國長老派教会婦人宣教師ミス・ヤングマン、タムソン夫人、築地居留地にB六番女学校「グラハム・セミナリー」を開き、翌年一月に開校する。アメリカン・ボード三月婦人宣教師ミス・E・タルコット、ミス・J・E・

明治七 一八七四	<p>ダッドレー、九月宣教師 J・L・アトキンソン夫妻、一〇月 G・M・ディクスター夫妻、H・H・リービット、一二月 ミス・M・E・グールデー、来日。タルコット、ダッドレーは神戸に学校を開く。英國教会伝道教会宣教師 N・デニングは長崎に、C・F・ワレンは大阪に到着。カナダ・メソジスト教会宣教師 ジョージ・カクラン夫妻、D・マクドナルド夫妻来日。語学研修のため横浜に留まる。外国福音伝播協会宣教師 A・C・ショーン、W・B・ライト一〇月に来日し、東京で語学研修。米国婦人連合外國伝道協会、一〇月宣教師 ミセス・L・E・ベントン（ミセス・J・C・バラ）来日。九月一三日岩倉具視政府視察団、米国、歐州から帰国。</p> <p>米国聖公会、二月東京に学校を設立（のちの立教）。一一月婦人宣教師 ミス・エレン・G・エディ来日、一二月チャールズ・H・ニューマン辞任し帰米。米国長老教会宣教師 E・ローゼイ・ミロル、ミッショーンを辞任。秋、住吉町教会建設。前年一二月に設立の中会に加入。カラゾルスの東京第一長老教会も中会に加入。一二月長崎梅ヶ崎に礼拝堂を建築。米国改革派教会 ブラウン博士、ブラウン神学塾を開く。この年ミセス・E・ローゼイ・ミロル、伊勢山の女学校に寄宿舎と校舎を計画。米国メソジスト監督教会、六月宣教師 R・S・マクレー博士（神学）、八月 J・C・デビソン夫妻、ジュリウス・ソーパル夫妻、一二月 M・C・ハリス、横浜に到着。I・H・コレル夫妻も中国を変更して日本に留まる。マクレーとコレルは横浜、ソーパルは東京、デビソンは長崎、ハリスは函館に赴任。一〇月米国婦人外國伝道協会からミス・ドーラ・E・スクーンメーカー来日し、東京三田で女学校を開く。カナダ・メソジスト教会宣教師 D・マクドナルド、駿河県の招聘を受け静岡の学校に赴任、教師、医師として働く傍ら、自宅で伝</p>
-------------	---

明治八 一八七五	<p>道し、静岡メソジスト教会を設立。カクラン、東京で中村敬宇主宰の同人社の教師となり、自宅で礼拝をもち、伝道。米国バプテスト教会、六月宣教師アーサー夫妻東京に移転し、駿河台で女学校を開く。アメリカン・ボード一月宣教師W・ティラー博士（医学）六月ミス・J・A・ギュリック、一一月J・H・デフォレスト夫妻、A・H・アダムス博士（医学）夫妻、新島襄（ジョセフ・ハーディー・ニイシマ）、来日。四月神戸公会、五月浪花公会設立。英國教会伝道協会、五月宣教師J・パイパー夫妻、P・K・ファイソン夫妻、秋H・エビングストン夫妻、来日。パイパーは東京、デニングは函館に着任。エビングストンは大阪でワレンと合流し、ファイソンは東京で語学研修。米国婦人連合外国伝道協会、一一月宣教師ミセス・M・T・トル到来日。エディンバラ医療伝道会、五月セオバルト・A・パーム博士夫妻来日、東京で語学研修。スコットランド一致長老教会、五月宣教師ロバート・デビットソン、ヘンリー・フォールズ博士（医学）、六月宣教師ヒュー・ワデル来日東京で語学研修。フォールズ博士、築地で施療所を開設、医学生が多数集まる。一〇月、京浜の二公会と阪神の二公会で合同を協議し、一致するも、翌年阪神側拒否。改革派、長老派、明治一〇年までに横浜第一長老教会（住吉町教会、のち指路教会）、東京第一長老教会（芝露月町教会）、法典長老教会（法典教会）、上田日本基督教公会（上田教会）、長崎日本キリスト公会（長崎教会）、品川長老教会（品川教会）、大森長老教会（大森教会）設立。</p>
九月宣教師ウイリアム・インブリー夫妻、横浜に到着。宣教師J・C・バラ加入し、横浜の男	<p>米国聖公会、一月大阪でミス・エディが女学校を設立。（のちのプール女学院）米国長老教会、</p>

子学校の責任を負う。ミス・ギャンブル辞任。米国改革派教会、前長老教会宣教師E・ローディ・ミドル加入。五月フェリス女学校校舎完成、六月開校。七月ユニオンチャーチ（横浜海岸教会）献堂。米国バプテスト教会、二月横浜の教会堂焼失。宣教師館は類焼を免れる。一月ミス・アンナ・H・キダー、ミス・クララ・A・サンズ加入し、キダーは東京で、ミス・サンズは横浜で婦人伝道師養成に従事。アメリカン・ボード一一月宣教師E・T・ドーン夫妻、D・W・ラーネット夫妻、ミス・F・A・スティーブンス（J・T・ギュリック夫人）、ミス・J・E・ウイーラー来日。四月G・M・デクスター夫妻帰米。一一月新島襄、京都に学校を開校。ミス・タルコット、ミス・ダッドラー、神戸に女学校を開校。西宮、有馬、三田、加古川、明石、灘に診療所を開設。英國教会伝道協会、宣教師バーンサイドは病氣のため帰英、かわってH・モンドレルが長崎に赴任。宣教師デニングは函館で礼拝を開始する。語学研修を終え、宣教師ファイソンも伝道を開始。アメリカン・ミッショントーム、昨秋ミセス・ブライ恩病氣のため帰米、かわって宣教師ミス・A・V・N・マルトビー來日し、トームに加わる。アメリカ・メソジスト監督教会、一月宣教師ソパールは津田仙夫妻に洗礼。一〇月教会を設立した。福音伝播協会、ミス・アリス・ホール、婦人団体から派遣されて赴任。東京の芝近くで女学校を始める。エディンバラ医療伝道会、バーム博士は東京から新潟に移り、自宅で説教会を開く。スッコットランド一致長老教会宣教師S・G・マクラレン夫妻來日。女子教育に貢献する。三月太政官布告により、日曜日が休日となる。米国聖公会、一一月東京の大火で礼拝堂、校舎、主教宅焼失し、甚大な被害を受ける。米国長老教会、宣教師ミス・マーシュ、ミス・ファニー・

ギュリック来日。九月ミセス・M・T・トルー、ミッショーンに加入し、銀座の女学校（現・女子学院）の責任を負う。一月宣教師インブリー夫妻は東京に移住。宣教師ルーミス健康を害し、一家で帰米。この年初宣教師カラゾルス、伝道局に辞表を提出、初夏辞任し、文部省で働く。東京第一長老教会は、二つに分裂。米国改革派教会、宣教師ウルフは一月にミッショーンとの関係を辞し、文部省で働く。七月宣教師J・L・アメルマン夫妻横浜に赴任。年末、信州に上田教会設立。一二月長崎に教会を設立。米国バプテスト教会、東京に教会設立。一一月宣教師ドビンズ夫妻は横浜に赴任したが、夫人の病気のため帰米。アメリカン・ボード、宣教師ミス・M・J・パローズが神戸に、ミス・A・J・ストークウェザーは京都に赴任。一二月京都に三教会を設立。英國教会伝道協会宣教師ファイソン、新潟で伝道を始める。アメリカ・ミッショーン・ホーム、七月ミス・S・B・マクニールが加入。米国メソジスト監督教会、六月ミス・オリーブ・ハイティングが来日し、東京のミス・スクーンマイカーの教育事業に合流。宣教師ソーパル、築地に教会堂を建設、芝にも説教所を開く。カナダ・メソジスト教会宣教師G・M・ミーチャム夫妻、沼津に赴任。C・S・イビー夫妻、東京に留まる。福音伝播協会、宣教師H・J・フォス、F・B・プランマー、大阪に赴任。宣教師シヨー、慶応義塾を辞し、イギリス公使館牧師に就任。北アメリカ福音協会、伝道局設立のため宣教師医学博士F・クレッカー一家、A・ハームヒューバー、ミス・R・J・ハドソン、横浜に赴任。熊本洋学校アメリカ人教師L・L・ジエーンズの指導により、生徒三五名熊本城外花岡山で集会、「奉教趣意書」に誓約。

一月三〇日西南の役勃発。米国聖公会、四月大火で焼失の教会堂を再建。男子部は一時閉鎖。

レニング博士、大阪に新施療所を開所。五月宣教師ミス・F・R・ピットマン、東京に赴任、女学校で働く。六月宣教師イサーク・K・ヨコヤマ、医学と神学を修め横浜に帰国。米国長老教会宣教師ジョージ・ウイリアム・ノックス夫妻、T・T・アレキサンダー夫妻、T・C・ワイン夫妻、ミス・C・E・エルドレッド、来日。ノックス、アレキサンダーは東京、ワインは横浜、ミス・エルトレッドは東京銀座の女学校でミセス・トルーに合流。六月品川長老教会、七月大森長老教会、一月麹町教会、浅草教会、牛込教会、一二月両国橋教会が建設。一八七二年の宣教師協議会以来懸案となっていた、長老派・改革派・組合派の公同的教会の建設は、教会政治規準の相違から不可能であることが明らかになり、新たに一八七六年より同じ長老主義政治の米国改革派教会・米国長老教会・スコットランド長老教会のミッショングを中心になり、日本人教会の教会諸規則を検討、一八七七年「日本基督一致教会」に合同する。推薦教理規準はウェストミンスター小教理問答・ハイデルベルク信仰問答・ウェストミンスター信仰告白・ドルト大会信仰規準とする。一〇月合同会議を横浜で開催。三ミッショング所属の一二人の外国人宣教師と教会代表の八人の長老が出席。横浜・海岸教会、東京・新栄教会、東京・築地教会、横浜・住吉町教会、下総・法典教会、信濃・上田教会、東京・品川教会、下総・大森教会の八教会の会員数六二三名、教職志願者二五名。すべての教会で毎月献金がなされている。奥野昌綱、小川義綏、戸田忠厚、按手を受け、教師となる。九月、東京に一致神学校を設立し、三ミッショング協議会が監督する事を決定した。各ミッショングからの専任教授三名を任命する。米国改革派教会宣教師アメルマンはブラウン神学塾と横浜ユニオンチャーチの責任を負っていたが、

一致神学校の教授就任のため一〇月東京に転居。東京に麴町教会建設。婦人外国伝道局の支援の報に、長崎の女子教育にミセス・スタウトは再度取り組む決意。米国バプテスト教会、宣教師アーサー、健康を害したため五月に帰米したが、一二月オーランドで死去。アメリカン・ボーデ四月宣教師デヴィット・C・ジェンクス夫妻、一〇月ミス・ジュリア・ウイルソン、ミス・H・F・パーメリー、一一ウイリアム・W・カーチス夫妻、ミス・V・A・クラークソン来日。ミス・パーメリーはミス・ストークウェザー開いたが京都女学校に、ミス・クラークソンは神戸の女学校に加わる。五月宣教師E・T・ドーソン夫妻はミクロネシア・ミッショニヤー移る。教会伝道協会、四月東洋女子教育振興協会からミス・M・J・オクスラッドが大阪に赴任。アメリカ・ミッショナリ・ホーム、八月ミセス・A・ヴィール、ミス・N・フレッチャード、一月ミス・M・ネルソン来日。ミス・マルトビー、ミセス・ベントンは結婚のため、ホームを離れた。五月チフスのため学校を一時期休校。米国メソジスト監督教会、宣教師J・イング夫妻、W・C・デビソン夫妻来日。六月愛知の西尾教会建設。カナダ・メソジスト教会、静岡県の沼津の学校で宣教師ミーチャムが二人の教師と三人の生徒に洗礼、教会の核が形成。スコットランド一致教会宣教師デビッドソン、一二月両国橋教会を建設。北アメリカ福音教会、七月クレッカーブ博士一家、ミス・ハドソン横浜から東京に移転。駿河台に男子学校を設立を準備する。九月ハームヒューバーは横浜から大阪に移転し、活動の拠点とする。カンバーランド長老教会、宣教師J・B・ヘイルを大阪に派遣。札幌農学校生W・S・クラークの「イエスを信じる者の誓約」に署名。

明治一 一八七八	四月第二回一致教会中会、安川亨按手。井深梶之介・植村正久・稻垣信・服部章蔵・青山昇三郎・浅川浅・山本秀煌ら一三名准允。五月、東京開催の宣教師会で旧約聖書翻訳を計画。初め譜付讃美歌出版。九月本郷教会、一〇月和戸教会、一一月桐生教会、佐倉教会建設。一月、日本伝道会社が設立される。日本人信徒による自給自治の伝道団体。メソジスト派宣教師M・C・ハリスから札幌農学校生受洗。四年後「札幌基督教會」(のち札幌独立基督教会)を創立。
明治二 一八七九	一致教会伝道会社設立。青山昇三郎・稻垣信・眞木重遠・浅川浅ら按手。四月銀座教会加入。
明治二 一八七九	一月下谷教会、日本橋教会設立。新約聖書全巻和訳完成。
明治二 一八八〇	一月井深梶之介・植村正久・田村直臣按手。四月新約聖書全巻和訳完成祝賀会。五月柳川教会建設。一一月「六合雑誌」創刊。押川方義仙台地方伝道を開始。石原保太郎按手を受け、新栄教会牧師となる。一二月赤間ヶ関教会設立。「東京青年会」結成。
明治二 一八八一	五月鹿児島教会、金沢教会、仙台教会建設。一一月第一回一致教会大会を東京・新栄橋教会で開催、北部・東部・鎮西の三中会を設ける。長崎神学校創設。
明治一 一八八二	大儀見元三郎、木村熊二帰朝。留川一路・阪野嘉一按手。中橋教会、武州足立教会、山口教会設立。
明治一 一八八三	一月横浜海岸教会、バラ宣教師の告白から、神学校や諸教会にリバイバル起こる。四月大阪で各派宣教教師会開催。一六教派代表一〇六名参加。五月東京新栄教会で第三回日本基督信徒大親睦会開催され、リバイバル。以後全国に波及。一一月第二回一致教会大会東京・新栄教会で開催。三島教会、九十九里教会、本所教会、広島教会、豊浦教会、函館教会など設立。
明治一 一八八四	

一八八四	福沢諭吉、「時事新報」にてキリスト教を受け入れる必要を説く。「聖書の友」創刊。植村正久	明治一七	『眞理一斑』出版。五月、名古屋教会設立。一一月フルベツキ、タムソン宣教師ら高知伝道を開始。星野光多着手。	
一八八五	超教派の日本基督教福音同盟会成立。第三回大会東京京橋厚生会館で開催。伝道局を創設。東明治一八	北四教会加入。東北中会、浪速中会を置く。新橋教会、赤坂教会、西芝教会、宇都宮教会、大阪北教会、高知教会、大阪南教会、岩沼教会、石巻教会等設置。一二月南長老教会R・E・マカルピン、R・B・グリナン宣教師来日、当初二人は高知で伝道、翌年マカルピンは名古屋伝道に従事。		
一八八六	米国改革派教会、南長老教会、協力ミッショニング加入。米国改革派教会は仙台に移り、押川方義と協力、仙台神学校（のちの東北学院）を創設。日本組合基督教会設立。南長老教会は高知に移り、山本秀徳と協力。六月明治学院設立。横須賀教会、殿町教会、古川教会建設。元大工町教会、新潟教会、村上教会加入。	明治一九		
一八八七	五月第四回大会東京・京橋厚生会館で開催。一致・組合両派の合併の議起ころ。米国婦人一致異邦伝道協会、協力ミッショニングに加入。石井十次、岡山孤児院設立。	明治二〇		
一八八八	二月三日旧約聖書翻訳完成祝賀会。五月一致教会、臨時大会を東京で開催、一致・組合両派の合同を協議。一一月大阪で再度臨時大会を開催。長崎神学校、普通学部・神学部合同して、東山学院と改称。南長老教会宣教師S・P・フルトン来日。	明治二一		
一八八九	二月一日「大日本帝国憲法」発布。信教の自由を認める。森有礼文部大臣、神風連西野文太			

## 明治二二

郎に発布式典の不敬の廉で刺殺される。三月一致・組合両派合同委員会、合同案を修正、可決。五月一致教会第五回大会東京新栄橋教会で開催。両派合同案を否決。一致教会憲法編成委員を置く。名古屋金城女学校創立。松浦教会、明治学院教会設立。カンバーランド長老教会、協力ミッショニ加入。大阪西教会、大阪東教会、和歌山新宮教会、愛憐教会、和歌山教会、田辺教会、那賀教会、愛知教会、深川教会の9教会加入。南長老教会W・B・マキルエン来日、高知伝道に従事。S・P・フルトン、名古屋でR・E・マカルピンと同労。

一八九〇  
明治二三

一〇月三〇日「教育勅語」発布。四月一致・組合両教会の合同無期延期となる。一二月日本基督教教会第六回大会東京・数寄屋橋教会で開催。憲法規則大改正、使徒信条に簡単な前文をついた「簡易信条」を採択、名称を「日本基督教会」に変更。明治学院、東山学院、東北学院の各神学部を認可。四日市教会、高田教会、足利教会、北佐久教会、阿久和教会、建設。新潟教会、法典教会離脱。S・P・フルトン、R・E・マカルピンと岡崎伝道開始。

一八九一  
明治二四

一月九日、内村鑑三、第一高等中学校「教育勅語」奉戴式で「不敬」をとがめられ、辞職。仙台に神学校設立。一二月第七回大会を東京・数寄屋橋教会で開催。山陽中会を置く。共立女子神学校創立。小倉教会、津和野教会、信達教会設立。

一八九二  
明治二五

一月一五日熊本英学校基督教者教師奥村禎次郎、熊本県知事により解雇される。一月帝国大学教授久米邦武、「神道は祭天の古俗」説で神道界から非難され、三月非職となる。一一月第八回大会を大阪北教会で開催。大会、高知伝道を決議。

## 一八九三

井上哲次郎「教育と宗教の衝突」でキリスト教を攻撃。日本基督教会、高知県下に大挙伝道。

			明治二六	唐津教会、佐賀教会設立。
一八九四	明治二七	八月一日日本、清国に宣戦布告（日清戦争）。七月四日、日本基督教会、数寄屋橋教会牧師田村直臣が米国で出版の『日本の花嫁』で日本の家族倫理を批判したことにつき、教会裁判を開き「同胞讒誣罪」で譴責、免職とする。田村、不服で脱会。第九回大会「日基教会伝道局条例改正」外国语ミッショングからの独立自給の伝道を決議。		
一八九五	明治二八	四月日清講和条約調印（朝鮮の独立承認、遼東半島・台湾・澎湖列島の割譲など）。七月第一〇回日本基督教会大会、名古屋教会で開催。一〇月千葉教会、札幌教会設立。日本組合基督教会第一〇回総会、ボードから伝道会社への寄付金謝絶を決議。救世軍来日。		
一八九六	明治二九	六月台湾伝道開始。台湾台北教会、福岡県若松教会設立。セブンスデー・アドベンティスト、日本伝道を開始。		
一八九七	明治三〇	朝鮮國、國名を韓に改める。一月一六日日本学生基督教青年同盟成立。七月四日高野房太郎、片山潜、島田三郎、阿部磯雄ら「労働組合期成会」結成。第一二回大会東京・芝教会で開催。「常置委員会」設置。神戸教会、北海道聖園教会設立。		
一八九八	明治三一	七月第一二回大会横浜・フェリス和英女学校で開催。「協力ミッショング」を厳格に定め、南北長老教会、北英國長老教会、オランダ改革派教会、ジャーマン・リフォームド、カンバーランド長老教会などと公的関係を絶つ。東京第一中会、第二中会を合同し、一中会とする。		
一八九九	明治三二	八月三日「文部省訓令一二号」教育と宗教の分離をミッショングスクールに要請。青山学院、明治学院ら訓令撤廃を要請し、キリスト教主義を守るために抵抗し、中学の資格を返上。立教中		

					学は寄宿舎でキリスト教教育を実施。同志社は訓令に従い、普通学校を設立。
一九〇〇	明治三三	明治三三	明治三三	明治三三	超教派「日本基督教福音同盟会」第一〇回大会、「二〇世紀大挙伝道」を決議。一〇月第一四回大会を東京・新栄教会で開催。七月南長老教会ミッショニン、明治学院理事会に加わる。一一月宣教師S・P・フルトン、東京に転居。一二月田中正造、足尾銅山事件で天皇に直訴。「宗教法案」廃案。
一九〇一	明治三四	明治三四	明治三四	明治三四	日本基督教福音同盟会二〇世紀大挙伝道で求道者約二万人を得る。日本基督教会の特別伝道行われる。一〇月一五回大会を東京・新栄教会で開催。北海道伝道着手を議決。市ヶ谷教会設立。
一九〇二	明治三五	明治三五	明治三五	明治三五	植村正久、海老名弾正と三位一体論争。
一九〇三	明治三六	明治三六	明治三六	明治三六	一〇月第一六回大会東京・新栄教会で開催。和戸講義所、除名に関する上告を却下さる。台南教会、津教会、門司教会設立。この年より、キリスト教徒の会堂結婚式に倣い、仏教徒は寺院で神道は神社で挙式行われる。
一九〇四	明治三七	明治三七	明治三七	明治三七	N・クラーク『キリスト教神学概論』採用をめぐり、S・P・フルトン宣教師から批判され、明治学院神学部を辞職。内村鑑三「聖書之研究」に「非戦論」執筆。「さんびか」刊行。
一九〇四	明治三八	明治三八	明治三八	明治三八	一〇月第一七回大会東京・新栄教会で開催。北海道中会を置く。一一月植村正久、教科書W・日韓協約調印。朝鮮釜山に伝道を開始。東京連合祈祷会を開催。一二月、第一八回大会を東京・芝教会で開催。「独立建議」提案されるも否決、翌一九回大会で決議。各箇教会の独立のため中会に督励を求める。またミッショニンとの協力が実在しないことを確認。公私にわたる一切の

		関係を絶つ。「東京神学社」を設立。基隆教会、レバノン教会設立。
一九〇五 明治三八	一九〇六 明治三九	九月五日日露講和条約調印。日韓新協約調印。韓国各地に暴動。日比谷で講和反対国民大会開催、政府系新聞社・交番など焼討事件起る。一〇月第一九回大会東京・芝教会で開催。大阪・堺教会、仙台東六番丁教会設立。
一九〇七 明治四〇	一九〇八 明治四一	一〇月第二〇回大会東京・富士見町教会で開催、「協力ミッショング」を決議し、米國北長老教会西部ミッショング、合衆国リフォームド・ミッショング、米国プレスビテリアン東部ミッショングと協力関係を結ぶ。台湾中会設立。特別伝道、満韓伝道を決議。神港教会、大連教会、當口教会、釜山教会設立。
一九〇九 明治四二	一九一〇 明治四三	六月南長老派、ミッショング協力のいきさつから、明治学院と関係を絶ち、S・P・フルトン辞職。神戸神学校をW・C・ブキャナンらと開設。一〇月第二二回大会東京・芝教会で開催。憲法の長老の「男子たる」要件削除を決議。太田教会、熊本教会、高松教会設立。メソジスト系三派合同し、「日本メソジスト教会」成立。
一九一〇		水戸教会、湊川教会、奉天教会設立。一〇月第二三回大会横浜・指路教会で開催。憲法一部改正、大会の組織を変更。明年カルビン生誕四百年記念会開催を決議。 一〇月第二三回大会東京・麹町教会で開催。憲法・規則一部の改正実施。南長老教会ミッショング、「申合ミッショング」として関係を持続する。北京伝道開始。山梨教会、金城教会設立。「瀬予防法」制定。プロテスタント開教五〇年祝賀感謝会。 五月聖書改訳着手。朝鮮伝道開始。九月第二四回大会浜寺・南海鉄道公会堂で開催。「教会憲

			明治四三
			法改正案」承認。大会、朝鮮京城特別伝道を決議。青山教会、田辺教会、岡山教会、旭川教会、福岡教会、台中教会等設立。英國エディンバラで「世界宣教大会」開催。二〇世紀エキュメニカル運動の出発点となる。五月二五日「大逆事件」検挙開始。翌、秘密裁判で二四名に死刑。
			一二名に死刑執行、一二名無期懲役。八月二二日日韓併合。
一九一一		二月「日本基督教会同盟」結成。布引教会、天下茶屋教会設立。一〇月第二五回大会東京・芝	
明治四四		教会で開催。信教自由に関する決議案可決。日曜学校同盟成立。	
一九一二		二月内相原敬、神道・仏教・キリスト教に「三教会同」を斡旋。六月、滿州中会設立。七月三	
明治四五		〇日天皇死去。皇太子嘉仁践祚。九月一三日明治天皇大喪に乃木大将夫妻殉死。一〇月第二六	
大正一		回大会仙台東二番丁教会で開催。旅順教会、京城教会、郡山教会、千駄ヶ谷教会設立。	
一九一三		六月一三日内務省宗教局を文部省に移管、宗教行政と神社行政を分離。七月文部大臣、三教代表者を招待。一〇月基督教代表者一一名招待。一〇月第二七回大会東京・富士見町教会で開催。	
大正二		日本基督教会婦人伝道会社設立を承認。徳島教会、大阪東教会設立。	
一九一四		七月二八日第一次世界大戦勃発。八月二三日ドイツに宣戦布告。「世界宣教大会」日本継続委員会発足。委員長井深梶之助、東部長植村正久、西部長宮川常輝、全国で教派を超えて伝道し、大きな成果。一〇月第二八回大会東京・芝教会で開催。朝鮮中会設立。青島教会、釜山教会等設立。	
大正三		八月朝鮮中会設置。一〇月第二九回大会東京・新栄教会で開催。大森教会、新義州教会設立。	
一九一四	S C M (Student Christian Movement)	基督者学生運動起る。	
一九一五		一〇月第三〇回大会神戸基督教青年会館で開催。湊西教会、撫順教会設立。満州、台湾、生蕃	

					大正五	等の特別伝道開始。賀川豊彦、日本基督教連盟を母体に「神の国」運動を展開。
一九一六					大正六	一月内村鑑三、中田重治、木村清松ら、神田の東京基督教青年会館で「聖書の預言者の研究演説会」開催。再臨運動起る。二月二四日新約全書改訳完成、一〇月出版。一〇月第三回大会
大正六					御殿場東山荘で開催。中渋谷教会、大崎教会、新嘉坂教会、安東教会、佐世保教会、津教会設立。	
一九一八					大正七	「大學令」公布。五月全国教職会鎌倉で開催。一〇月第三回大会東京・富士見町教会で開催。上海日本人教会、高雄教会、小名木川教会設立。
一九一九					大正八	三月一日京城、平壤で朝鮮独立宣言。3・1運動・万歳事件。五月一〇日日本基督教同盟代表石坂亀治ら3・1運動調査のため渡朝、六月帰国し総督政治を批判。一〇月第三回大会東京。
一九二〇					大正九	富士見町教会で開催。憲法改正、中会分割を承認。
一九二一					大正九	倍加伝道開始。九月第三回大会東京・富士見町教会で開催。憲法規則改正。聚楽教会、荒町教会設立。世界日曜学校大会東京で開催。三三カ国一、八〇〇名参加。
一九二二					大正一一〇	一〇月第三五回大会神戸・神港教会で開催。日本基督公会創立五〇周年記念礼拝、神港教会で守る。青島教会、安芸教会、堺教会設立。
一九二三					大正一一	一〇月第三六回大会横浜海岸教会で開催。日基・ミッショソ共同伝道案を可決。日本基督教会維持財團設立。小石川教会、鎌倉教会、金城教会、若松教会、榎町教会、野付牛教会、遠軽教会
大正一二					大正一二〇	会・滝川教会設立。
一九二三					大正一二	九月一日、関東大震災。一一月第三七回大会大阪・浜寺公会堂で開催。被災教会に「震災救護会」より支援。一一月一〇日国民精神作興に関する詔書。

一九二四 大正一三	一〇月第三八回大会東京・明治学院神学部講堂で開催。教育局設置、財務局条例可決。
一九二五 大正一四	一〇月第三九回大会東京・明治学院講堂で開催。
一九二六 大正一五	日本基督教會、宗教法案反対運動。一〇月第四〇回大会大阪基督教青年会館で開催。神戸神学校、大阪神学院（アメリカ・カンバーランド長老教会ミッショント所属）と合同して「中央神学校」となる。一二月二十五日天皇死去。攝政裕仁践祚し、昭和と改元。
昭和一 一九二七	二月七日大正天皇大喪。一〇月第四一回大会横浜指路教会で開催。政府、第二次「宗教法案」提案、基督教会各派反対運動し、廃案。
昭和二 一九二八	六月二九日緊急勅令で治安維持法改正。一〇月第四二回大会明治神宮外苑日本青年会館で開催。
昭和三 一九二九	一一月二日日本基督教連盟総会、「社会信条」を発表。人権の尊重、不戦条約の促進を訴える。
昭和四 一九三〇	一一月一〇日天皇、即位礼挙行。「宗教団体法」審議未了。
昭和五 一九三〇	一〇月二日伊勢神宮式年遷宮祭。文部省、学校・青年団等に国民行事として遙拝式を指示。マリオ・シャルディーニ大司教、教書で義式の挙行、参列の取り止めをカトリック学校に指示。一〇月第四三回大会、神学社と明治学院神学部の合併を決議し、教会直営の神学校として「日本神学校」を発足。校長川添万壽得、教頭高倉徳太郎就任。
	五月二八日基督教五五団体、政府の神社問題調査委員会へ神社参拝強制への考慮を要望。一〇月第四四回大会神戸・神港教会で開催。東京神学社と明治学院神学部合併し、日本神学校設立。

一九三一	九月一八日満州事変。政府、不拡大方針の声明を発表するも、関東軍は無視し、戦線は拡大。
昭和六	一〇月第四五回大会東京・信濃町教会で開催。
一九三二	一月一八日上海事変。三月一日満州国、建国宣言。四月二十四日角田桂嶽、日本基督荒町教会（現・改革派仙台教会）教師就任。五月一五日海軍将校、陸軍士官学校生徒ら、犬養首相らを暗殺。七月Y.M.C.A夏期学校、S.C.M急進派学生により混乱。九月上智大学生の一部、靖国神社参拝を拒否。一〇月四六回大会東京・富士見町教会で開催。全員協議会で「対非常事態宣言書建議案」「伝道週間設定案」を決議し、満州伝道を強化。ミッショナルからの独立、自主伝道体制確立を確認。
昭和七	
一九三三	三月二七日国際連盟脱退。一〇月第四七回大会。
昭和八	
一九三四	一〇月第四八回大会東京・信濃町教会で開催。中央神学校旧約学教授松尾武宅で、三五会発足。
昭和九	中央神学校関係者、出身者による神学研究会。毎月一回開催し、敗戦まで続く。
一九三五	一〇月第四九回大会東京・富士見町教会で開催。一二月一五日角田桂嶽、荒町教会牧師任職。
昭和一〇	
一九三六	一〇月第五〇回大会東京・信濃町教会で開催。宗教団体法につき富田満説明。
昭和一一	
一九三七	二月一四日角田桂嶽、仙台東二番丁教会でメイチエン記念講演会を行う。六月三〇日日本基督教会大会議長富田満、平壌山亭峴教会で、神社参拝を国家儀礼として容認し、説得したため、
昭和一二	

		朱基徹牧師らと激論になる。一〇月第五回大会東京・日本基督教会館で開催。松尾武『聖書と信仰』創刊。（→四二年常葉隆興引継ぎ）三五会メンバー、正統的立場の雑誌出版を申し合わせる。（松尾武、角田桂嶽、常葉隆興、川島専助、岡田稔、田中剛二）刊行はできなかつたが、岡田稔は『聖書と信仰』（松尾武刊行）紙上に「二性基督論」を執筆、のち『改革派教会の神学』（長崎書店刊）として発行する。
一九三八	昭和一三	四月一〇日国家総動員法公布。九月第二七回朝鮮耶蘇教長老会総会、平壌・山亭峴教会で開催。議長、神社参拝を强行可決。朱基徹牧師はじめ五〇余名の聖職者、神社参拝を拒否し、獄中で殉教。二〇〇余教会閉鎖。キリスト教主義中学校・小学校一〇校廃校。一〇月第五二回大会東京・富士見町教会で開催。奥羽中会設立。大会後、改革派信仰を持つ有志の修養会を開催。（松尾武、角田桂嶽、常葉隆興、川島専助、岡田稔、田中剛二、春名寿章、渡辺良亮、梅津吉之助、ほか一三名）「第一回修養会」開催。OPC宣教師R・H・マキルエン、満州より日本に転じ、東京・長野で伝道。
一九三九	昭和一四	三月第二次「宗教団体法」制定、四月四日公布。基督教会各派、国家の保護・認知を求め、明確な反対なし。三月松尾武「日基信仰告白の理解」一〇月第五三回大会東京・富士見町教会で開催。教団設立を審議可決。一二月岡田稔、『カルヴィン主義小論叢書』を編集・毎月刊行。
一九四〇	昭和一五	一九四一・夏一三号をもつて閉じる。 キルエン。六月文部省、教団の認可基準を「教会数五〇、信徒数五千人以上」とする。七月救

一九四一 昭和一六	四月一六日第五五回臨時大会において、統一した告白を持たない部制による教団に参加することに対して、常葉隆興反対演説をするも否決される。六月「日本基督教団」成立（プロテスタンント三三教会加入）により、日本基督教会は同第一部となる。荒町教会、仙台南鍛冶町教会と名称変更。のち仙台四番丁教会と合同。一〇月松尾武「單一信条の課題のために」一一月二三日宮城遙拝等「国民儀礼」実施に抗して、岡田稔、中央神学校を閉鎖。一二月八日日本、米英に宣戦布告。太平洋戦争開戦。	世軍、憲兵隊により取り調べを受ける。八月日本基督教連盟、対策を協議し、全教派合同に動く。一〇月松尾武「諸教派間の聖書派的連結を提唱す」第五五回大会において、教会合同に関する建議案が提出された。岡田稔、田中剛二は他の賛同者とともに、信仰告白の内容について修正案を提出するも、否決された。原案「信仰告白は、使徒信条にプロテスタンントの立場を明白にする一文を附加すること」を修正案「福音主義プロテスタンティズムの真髓たる聖書の規範性、救いの恩寵性、教会の自立性を骨子とする告白文と使徒信条をもつて信仰告白となすこと」一〇月一七日神嘗祭。青山学院校庭において皇紀二千六百年奉祝全国基督教信徒大会が開催され、二万余人参加。
一九四二 昭和一七	三月岡田稔、神社参拝を拒否する立場を固持し、中央神学校の閉鎖届を提出。神学校図書館所蔵の全図書の譲渡を受け、「昭和神学研究所」を開設。一二月日本基督教団部制廃止を決議。	
一九四三 昭和一八	四月一日日本基督教団部制廃止施行。四月二日灘教会会員総会で法制面では日本基督教団に属するも、信仰告白としては単立教会をめざすことを満場一致で決議。（岡田稔作成の信仰告白	

	改革派教会本史	一般事項・他教派の動向
一九四五	六月六日神戸第二回大空襲で焦土と化す。中央神学校焼失。	1・15日本基督教団統理者富田満。
昭和二〇	日本基督教団所属一、一八六教会のうち羅災教会四九六教会に達す。九月一四日春名寿章、岡山県鴨方に疎開中の岡田稔を訪ね、教会ならびに神学校問題について懇談。松田輝一、春名寿章を訪ね、連合軍命令に言及し新教会設立を提言。名称案プレスビテリアンに春名も同意し、日本名として長老教会とすることを提案。常葉隆興、改革派教会運動について正統神学会の同志らに連絡相談する。(島村亀鶴・松尾武・渡辺公平・藤田昌直) 一〇月二〇日岡田稔、疎開先より帰神。一〇月二三日春名寿章・岡田稔を訪問、松田輝一を加え協議会開催を申し合わせる。一〇月二四日岡田稔・常葉隆興に改革派教会設立の趣意書に賛成の連絡。	東亜局長小崎道雄、各教会に東亜局の事業に理解と協力を求める文書を送付。1・18日本、本土決戦など戦争指導大綱決定。3・10東京夜間空襲より全土に空襲激化。
一九四四	正統神学会第一回講演会(松尾武、常葉隆興、渡辺公平、藤田昌直)	4・11米軍沖縄上陸。5・7独、無条件降伏。6・18教団統理者富田満、各教会に文部省の通牒に基づく必勝祈祷会開催の通達を発し、7・1に自らも神仏代表と共にキリスト教を代表して伊勢神宮に参拝。6・23日本、国民義勇兵役法
昭和一九	六月三日角田桂嶽、召天。	
一一月二二〇日杉原満寿枝宅で新教会設立準備会。一〇月二二		

五日常葉隆興、正統神学会の島村亀鶴・藤田昌直を訪問するも賛成を得ることができなかつた。一月四日西代教会において、岡田稔・松田輝一・春名寿章、長老教会設立に關し協議、一月二〇日神戸の杉原満寿枝宅で正式会合を開くことを常葉隆興に連絡。一月六日常葉隆興、渡辺公平とともに、宮城県大松沢村に松尾武を訪問し、新教会運動について相談した。一月一六日常葉隆興、日本基督教団を脱退。一月二〇日杉原満寿枝宅にて、新教会設立に関する正式会合、趣意書に常葉隆興・岡田稔・春名寿章・藤井重顯・大山忠一・松田輝一署名。(教会名・日本基督改革派教会 信条・ウェストミンスター基準 スローガン・聖書は神の言にして信仰と生活の謬りなき規準也) 趣意書に署名のため、常葉隆興、東京の松尾武、白石市の川島専助、仙台の渡辺公平を訪問。一二月九日灘教会は新教会成立を記念して感謝礼拝挙行、「改革派灘教会」の看板を出し参加を宣言。一二月一六日西代教会、新教会参加決議。

一月一日灘・西代教会と改革派最初の新年礼拝を行う。

一二月三〇日福井教会、新教会参加決議。

公布。8・6広島原爆投下。8・8ソ連、日本と戦闘状態に。8・9長崎原爆投下。8・15天皇、戦争終結の詔書放送。日本、無条件降伏す。8・30国際連合軍司令官マッカーサー厚木到着。9・20教團統理者富田満、カトリック教会代表者と共に、東久邇首相より「令旨」を受ける。10・4治安維持法廃止、宗教団体法解除。10・15文部省、私立学校における宗教教育を許可。12・15GHQ、国家と神道の分離指令。12・28宗教団体法廃止、宗教法人令発令。世界労連・国際連合・ユネスコ成立。

(一月三日連合祈祷会)。二月岡田稔、香川県に旅行、国諸教会に改革派参加を奨励。一月六日四日市教会、新教会参加決議。一月二一日日本基督改革派教会関西第一回長老会議於灘教会仮礼拝堂(牧師館) 杉原満寿枝・早川亮(灘)・竹内徳太郎(西代)・諏訪一郎(四日市)・岡田稔・春名寿章・藤井重顯・大山忠一・陪席Wモーア・松田輝一・釜田彰・秋仁ほか。一月二二日本基督改革派教会関西中会成立。四月二一日麻布森元町教会・北浦和教会、新教会参加決議。森元町教会は川島梶三郎宅で礼拝を守り、長老会全員一致で教団を離脱し、新教会参加を決議。牧師ならびに長老連名で教団宛に脱退届を提出。四月二六日東部中会準備会(麻布森元町・北浦和) 四月二六日東部中会成立。渡辺公平、教師試補准允。四月二八・二九日「日本基督改革派教会」、第一回創立大会を東京麻布南部坂教会会堂(成田良太牧師)を借り、挙行。岡田稔大会礼拝説教。常葉隆興・松井武・渡辺公平・川島専助・岡田稔・春名寿章・藤井重顯・大山忠一・野田辰夫の教師8名、川島梶三郎・早川亮・諏訪一朗の長老3名、計11名出席。議長に常

言」発表。4・19国際連盟解散。5・3極東国際軍事裁判開廷。5・9日本聖書神学校設立。6・7・8第3回日本基督教団臨時総会、「新日本建設キリスト教運動」の宣言文を出す。「統理者」を廃し、総会議長制をとる。6・9全国基督教大会・青山学院) 約4000名参加。宣言文を発表、3年にわたりて各地で運動を展開。日本基督教団離脱教会、救世軍、東洋宣教きよめ派、活水基督教団、日本聖公会、聖イエス会。12・19インド支那戦争(フランス・ベトナム)はじまる。

一九四七 昭和二二	<p>葉隆興、書記に松尾武を選出。四月二九日東部中会臨時中会、渡辺公平教師任職式。八月大山忠一、改革派加入を反対され、福井宝永教会を辞し、一〇月日本基督改革派名古屋教会に招聘される。九月二八日白石教会、新教会参加決議。</p> <p>一一月三日日本国憲法公布。一二月二三日改革派教会「創立宣言」発表（於長田教会）。一二月二十四日仙台教会、新教会参加決議。東部中会主催「改革派基督教講演会」講師・川島専助・松尾武・渡辺公平・常葉隆興。</p> <p>一月四日宣教師W・A・マキルエン再来日。一月七日宣教師J・A・マカルピン再来日。一月昭和神学研究所冬期講習会開催。一月二八日、両宣教師陪席し、神学校設立懇談会開催。三月二三日灘教会、会堂内に神戸改革派神学校を置くことを承認。四月一五日神戸改革派神学校開校式。</p> <p>（神戸市葺合区熊内仮校舎）四月二七・二八日日本基督改革派教会第二回大会（於長田教会）「創立宣言」を採択。</p> <p>起草委員・常葉隆興・松尾武・岡田稔・春名寿章。創立記念日を四月二八日と決定。五月六日神戸改革派神学校、灘教会内で開講。理事・常葉・松尾・岡田・春名・松田・早</p>
11・29 ユダ	<p>1・31 国際連合軍最高司令官マッカーサー。2・1ゼネスト中止を指令。3・31 教育基本法、学校教育法、私立学校法公布されキリスト教教育復活す。4・6ドレーバー使節団、日本再建四力年計画を發表。5・3日本国憲法施行。6・1片山哲（富士見町教会員）を首相とする社会党内閣発足。10・25不敬罪、姦通罪廃止。</p>

		川・マキルエン・モーア。岡田稔『基督教』（坂出キリスト教講座）刊行。四七年末から四八年元旦にかけW・A・マキルエン、J・A・マカルピン、L・W・モーアら二名、南長老教会ミッショントークン会議を神戸で開催。四国・神戸・愛岐地区伝道を協議。マキルエン、マカルピン夫妻、岐阜に赴任を決定。
一九四八 昭和二三		第二回大会年度臨時会で、松尾武を通して「米国クリスチヤンリフオームド教会」CRCより協力申し込みの書簡が紹介される。三月神港教会、教団離脱し単立教会となる。田中剛二牧師改革派に加入。四月単立改革派海南基督教会（橋本亘牧師）、改革派教会加入。山田教会教会形成。教団安芸教会長老二名と数名の信徒離脱し、伝道開始。六月久礼教会、教団を離脱、改革派加入（現・南与力町教会）。四月二九日日本基督改革派教会臨時二回大会（於灘教会）、新教連盟結成参加を否決。岡田稔、春名寿章、神学校教授就職式。理事・常葉隆興、松尾武、岡田稔、春名寿章、松田輝一、早川亮、W・A・マキルエン、L・W・モーア。
五月	『月刊キリスト教誌・改革派世界』（松尾武・常葉隆	ヤ・アラブ衝突、パレスチナ分割される。日本、公職追放令拡大。 12・12児童福祉法公布。改正民法公布により、家族制度廃止。
		教育勅語失効。4・1ベルリン封鎖。8・13大韓民国成立。9・9朝鮮民主主義人民共和国成立。11・12極東国際軍事裁判、判決。12・10世界人権宣言。

一九四九 昭和二四	<p>（興編）刊行。九月「岐阜県長老派教会修養会」準備委員長マカルピン。一〇月上諏訪教会松尾智恵子ら二十六名、教団を離脱、改革派集会を行う。岡田稔、上諏訪伝道所開設に協力。教団旭教会会員脱会し、改革派旭教会設立。（現・高知教会）一〇月一四日第三回大会（於東京キリスト教青年会ロビー）、改革派教会政治基準を採択。議長川島専助。一〇月二八日外国ミッションとの提携五原則決まる。四八年から四九年にかけ「改革主義信仰修養会」四回開催。藤井重顯訳『ウエストミンスター小教理問答』活水社刊。南長老教会ミッション、「神戸元町伝道館」設置。</p> <p>五月宿毛教会（斎藤為吉牧師）、改革派加入。五月『つのぶえ』（10号まで神戸長田教会機関紙・松田輝一。11号以降は岐阜のJ・A・マカルピン夫妻が編集を担当）刊。九月七日日本基督改革派教会、宗教法人登記。一〇月一三日W・A・マキルエン、田中剛二神学校教授就職就任式。一〇月一四日第四回大会（於板宿教会）議長春名寿章。一〇月四国中会、「改革派基督四国伝道会」発足。機関紙『改革派基督教 四国伝道会報』（現・「改革派教会 四国伝道」）</p>
12・25	<p>5・30 東京都公案条例反対デモ。 6月～8月。国電スト、下山、三鷹、松川事件相次ぐ。9・7 西ドイツにドイツ連邦共和国成立。10・1 中華人民共和国成立。</p> <p>に服役中の日本人戦犯を減刑と発</p>

一九五〇 昭和二五	三月CRC宣教師H・ブルノギ、六月E・A・バンバーグ 来日。三月神戸改革派神学校予科生四国善通寺へ移る。 (米国南長老教会ミッショントリニティ・チャーチの宣教師) 五月灘区高羽寿一〇の地に神戸改革派神学校の定礎式を行う。 六月CRC、宣教師スマットの報告を受け、協力「四 原則」採択と宣教師二名の派遣を決議。九月神戸改革派神 学校本料、灘教会よりいつたん熊内に移り、のち灘区高羽 寿の新校舎に移転。一〇月二五～二七日第五回大会（於東 京恩寵教会）議長田中剛二。四国中会成立。一〇月二六日 六月第四聖日を神学校日」と定める。一一月二三日神学 校献堂式。岡田稔訳「ウェストミンスター大教理問答書」 活水社より出版。「カルヴィン主義学生運動(CCSM)」 発足。	発行。南長老教会ミッショントリニティ・チャーチの宣教師 のお宿キリスト教会館敷地5千坪を購入。
一九五一 昭和二六	春、正統長老教会OPC宣教師R・H・マキルエン夫妻亘 理で宣教開始。三月H・ブルノギ、六月CRC宣教師E・ A・バンバーグ来日。三月二一日神学校第一回卒業式（佐 賀県立農業専門学校）	6・25朝鮮戦争始まる。8・10警 察予備隊令公布。9・1レッド・ ページ方針、内閣決定。この年、 キリスト教信徒数、プロテスタン ト20万8009人、カトリック14 万1638人、ハリストス正教会 3万2889人。
	1・1マッカーサー、年頭の辞で 講和と日本再武装の必要性を発表。 4・11マッカーサー、罷免される。	表。

	<p>藤慎二・諭訪武臣・青山輝徳・壺坂国三、宮道夫、片山健吉・井原牧生の七名) 六月一二日岡田稔、神戸改革派神学校校長に就任。一一月二一～二三日第六回大会(於神戸改革派神学校)、神社問題に関する建議案を可決。議長渡辺公平。横浜海岸教会(渡辺連平牧師)、日本基督教団を離脱、改革派教会へ加入。OPC宣教師G・Y・魚本夫妻、来日し、仙台で開拓伝道開始。南長老教会ミッショングループ、大阪に「天満伝道館」開設。</p>
<p>八月横浜海岸教会、退会を東部中会に通告。臨時中会欠席。一〇月二七～二九日第七回大会(於東京恩寵教会) 議長松田輝一。神戸改革派神学校の運営、米国南長老教会より日本基督改革派教会大会へ委譲され、「大会立」となる。横浜海岸教会脱会、日本基督教会へ加入。南長老教会ミッショングループ、中部日本放送でラジオ放送番組を開始。</p>	<p>1月韓国、李承晩ラインを宣言。3月キリスト者平和運動協議会結成。4・28対日平和条約・日米安保全保障条約発効。5・1血のメーデー事件。デモ隊6千人と警官5千人が乱闘。2人射殺、1230人検挙。7月破壊活動防止法公布。12月口語訳「新約聖書」キリスト新聞社刊行。</p>

		一九五三 昭和二八	四月松尾武ら、双恵学園小学校開校。七月神戸放送・高知放送、一〇月中部日本放送「キリストへの時間」開始。八月松尾武訳『ウエストミンスター信仰告白』双恵学園出版部刊。一〇月二一～二三日第八回大会（於神港教会）議長橋本亘。日本基督教改革派教会憲法成立宣言。CRCパンバーク、上諏訪伝道所を支援。ブルノギ、甲府伝道を開始。第一回「國際改革派信仰・行動協会」フランス・モンペリエで開催され、吉岡繁出席。	4月国際キリスト教大学創立。6月朝倉重雄訳『ウエストミンスター信仰告白』活水社刊。7・27朝鮮休戦協定調印。8・8ソ連水爆実験。12・24奄美群島返還の日米協定調印。
一九五四 昭和二九		一九五四 昭和二九	一月『リフォームド』（田中剛二編個人誌）発刊。神学校校長制を廃し、教授会議長制となる。四月一五日神戸改革派神学校教師館建設。一〇月二一～二三日第九回大会（於東京恩寵教会）議長川島専助。沖縄石垣島伝道を援助。一月二三日日本カルヴァニスト協会（JAC）発足。	3・1米国、ビキニで原水爆実験。4月日本聖書協会「口語訳新約聖書」刊。5・14政治的中立に関する教育二法成立公布。7月日本、防衛庁自衛隊発足。8・8日本基督教団、原水爆禁止署名運動全国協議会を結成。12月日本基督教団讃美歌委員会「改定讃美歌」刊。
一九五五 昭和三〇		一九五五 昭和三〇	三月大会対ミッショントCRC代表会談、サイド・バイ・サイド合意。七月カルヴァイン主義学生運動（CSM）、日	4月日本聖書協会「口語訳旧約聖書」刊。同「点字訳口語訳旧約聖

			本カルヴィニスト協会（JCA）に合流。一月二八〇二二 第十回大会（於神港教会）議長田中剛二 石垣島伝道決議 （一九五六〇一九六〇）セイロン改革派教会より友好関係 申し入れ。
一九五七 昭和三二	四月米国南長老教会ミッショニ、淀川キリスト教病院開院。 一〇月二三〇二六日第十一回大会（於善通寺教会）議長野 田辰夫。米国正統長老教会ミッショニ（OPC）よりのミッ シヨン協力の申し入れ受諾。G・Y・魚本宣教師仙台東部 で開拓伝道。E・ヤング『旧約聖書緒論』聖書図書刊行会・ 日本カルヴィニスト協会刊。米国南長老教会日本ミッショ ンはNCCの準加盟団体になることを決議し、改革派教会 のみならず日本基督教団、日本基督教会とも宣教協力を行 うよう方針を転換。	四月核武装問題「違憲」「自衛権」 論議起る。8・1米国、日本駐 留地上軍の撤退を開始。10・4ソ 連人工衛星。第一号打ち上げに成 功。	書」刊。8・6第一回原水爆禁止 世界大会、広島で開催。11・15保 守合同。12月靖国神社国家護持要 求の動き本格化。
一九五六 昭和三一	四月米国南長老教会ミッショニ、淀川キリスト教病院開院。 一〇月二三〇二六日第十一回大会（於善通寺教会）議長野 田辰夫。米国正統長老教会ミッショニ（OPC）よりのミッ シヨン協力の申し入れ受諾。G・Y・魚本宣教師仙台東部 で開拓伝道。E・ヤング『旧約聖書緒論』聖書図書刊行会・ 日本カルヴィニスト協会刊。米国南長老教会日本ミッショ ンはNCCの準加盟団体になることを決議し、改革派教会 のみならず日本基督教団、日本基督教会とも宣教協力を行 うよう方針を転換。	四月核武装問題「違憲」「自衛権」 論議起る。8・1米国、日本駐 留地上軍の撤退を開始。10・4ソ 連人工衛星。第一号打ち上げに成 功。	2月衆・参議院で原水爆実験禁止 決議。10・19日ソ国交回復共同宣 言。12・18国連総会、日本国連加 盟を承認。

		一九五八 昭和三三	四月八～九日西部中会、西部中会の二分案を可決。一〇月二〇～二四日第十三回大会（於灘教会・神港教会）、議長藤井重顯。西部中会の二分案を可決。政教分離の原則に関する決議案可決。J・Gメーチエン『パウロ宗教の起源』聖書図書刊行会・日本カルヴァニニスト協会刊。	1・31米国第一号人工衛星打ち上げに成功。2・8米国日本駐留地上軍撤退完了。
	一九五九 昭和三四	四月一六日中部中会成立。四月東部中会、「東北地方伝道強化に関する決議案」可決。六月二二五日政教分離についてキリスト教連合会に大会委員出席。九月一四日沖縄石垣島開拓伝道打ち切りを決定。一〇月二八～三〇日第十四回大會（於東京恩寵教会）議長吉岡繁。「大会開拓伝道建議案」「神学校対策委員設置」「政教分離研究委員会設置」を可決。B・Bウォーフィールド「聖書の靈感と權威」日本カルヴァニニスト協会刊。	4月皇太子婚儀、皇室神道により挙式される。9・26伊勢湾台風。11・4日本基督教団宣教100年記念大会。四国学院大学創立。自民党、宗教法人問題特別委員会を設置、伊勢神宮國當化と宗教法人法改正へ。11月児童権利宣言。	1・31米国第一号人工衛星打ち上げに成功。2・8米国日本駐留地上軍撤退完了。
一九六〇 昭和三五	七月三〇日神戸改革派神学校、各種学校として認可さる。九月一一日大会、米国南長老教会世界伝道局より神学校財産を委譲。一〇月一八～二〇日第十五回大会（於神港教会）議長福田敬太郎。「神学校基金設置の運動を開始すること」を決議。	1・19新日米安保条約調印。6・19新安保条約成立。安保批准阻止運動激化。10・12社会党浅沼委員長、右翼青年に刺殺さる。		

			一九六一 昭和三六	三月二一日神学校財産譲渡式（土地二、二三四坪、建物延四 五四・七四坪。六月二十四日豪雨により神学校崖下民家に被 害、犠牲四名。神学校基金設置、五〇〇万円募金。一〇月 一六・一八第十六回大会（於仙台教会中山平寮）議長大山 忠一。大会規則に「神学校経営」加わる。「神学校対策委 員会報告」受入。「神学校改組諸提案」可決。大会、教職 者共済制度規定可決。神社問題対策委員会設置。 一二月一 四日米国南長老教会世界伝道局長ワトソン来日。	1・3米国キュー・バ断交。5・16 韓国に軍事クーデター。8・30ソ 連核実験再開を発表。宗教者平和 会議京都で開催。
一九六二 昭和三七		三月双恵学園閉校。一〇月一六・一九日第十七回大会（於 神戸改革派神学校）議長松田一男。仙台半子町伝道所援助 決議。信仰基準改正案—ウエストミンスター信条告白一部 削除を承認。神学校定款改正。	7・11創価学会公明党を結成政治 参加。10月キュー・バにソ連ミサイ ル基地建設で米ソ対立。全日本キ リスト者平和会議結成。日本基督 教団、憲法擁護に關する声明発表。 10月第二バチカン公會議開催。 12月中ソ論争表面化。	1・26宗教者平和協議会理事会、 紀元節再現反対を声明。6月日本 基督教団、国民祝日改正法案反対	
一九六三 昭和三八	六月二六日W・A・マキルエン帰米。八月六・一六日世界 改革派協会会議R・E・S（米国グランドラビツツ）に吉 岡繁出席。一〇月一五・一八日第十八回大会（於雀のお宿				

		キリスト教会館）議長矢内昭一。新定款により神学校校長に岡田稔を選出。大会訳『ウェストミンスター大教理問答』新教出版社刊。米国南長老教会モントリート世界伝道協議会に岡田稔・石丸新出席。
一九六四 昭和三九		二月二五日大会神社問題委員会「国民祝日法改正案」反対声明。四月二八日～五月一日米国正統長老教会31回大会（米国ノックスプレスピテリアン教会）に安田吉三郎出席。五月二六～二七日臨時大会（於清里農村センター清泉寮）議長常葉隆興。七月一五日靖国神社戦没者追悼式反対声明。
一九六五 昭和四〇	設置。	七月二〇日大会信条翻訳委員会訳『ウェストミンスター信仰告白』新教出版社刊。一〇月一八～二一日第十九回大会（於神戸長田教会）議長橋本亘。ジュネーブ教会信仰問答書・ハイデルベルク信仰問答書の採用を可決。米国南長老教会ミッショントとの協力委員会を設置。長老会、教職者給与改善委員会設置。アジアプロテスタント現状調査委員会設置。
		二月米軍、北ベトナム爆撃開始。 2月バチカン公会議、信教の自由

		周年記念信徒大会」準備のため、一斉席上献金を行う。一月一日カルヴィン神学校校長クロミンガ講演。於神学校。政治基準改正。祝日法改正案（建国記念日二月二日）反対声明。第四回國際改革派信仰・行動協会、英國ケンブリッジで開催され、橋本龍三出席。
一九六六	昭和四一	四月一日「紀元節」復活反対声明。四月二八日臨時大会創立二十周年記念大会（於東京豊島区豊島公会堂）議長吉岡繁。「二十周年記念宣言」を可決。北九州、福岡両市地域に開拓伝道決定。二十周年記念信徒大会開催。九月三〇日奥山実インドネシア宣教に出発。一〇月一八～二二日第二十回大会（於高知県社会福祉会館）議長吉岡繁。神学校に改革派中央宣教問題研修所設置。東京首都圏地方研究所発足。教職者子女奨学金制度発足。
一九六七	昭和四二	七月九日岡田稔、四国学院大学赴任のため、神学校校長を辞任。後任に吉岡繁。一〇月三～六日第二十二回大会（於名古屋千代田生命ビル）議長矢内昭二。大会、福岡市の伝道に着手、献金を募る。中部・西部中会に地方宣教研究所を設置。神学校校長に吉岡繁を選出。救済活動委員会設置。
		1月東京大学医学部ストライキ。全国学園紛争の発端となる。3月日本基督教団「第一次世界大戦下における日本基督教団の責任についての告白」を出す。ビリーグラ

		一〇月三一日靖国神社国家護持立法化反対声明。
一九六八 昭和四三	四月二一六日大会主催大学生修養会。（於神学校）日本基督教改革派全国学生会結成。世界基督婦人矯風会第二十四回世界大会、東京で開催。八月一五日靖国神社問題連絡會議発足。神学校水害問題示談成立。一〇月八一一日第二十三回大会（於京都府立勤労会館）議長矢内昭二。忠海聖恵授産所及び静岡盲人伝道センター援助を可決。大会教師研修会開催決定。北九州地方伝道を決定、福岡市に岩崎洋司教師を宣教教師として派遣。	ハム国際大会。靖国神社国営化、成文化される。
一九六九 昭和四四	六月一六日本基督教改革派教会規則変更、文部省に認証さる。八月五日靖国法案廃案。一〇月一四一七日第二十四回大会（於高松教会）議長矢内昭二。大会出版委員会、「信徒の手引」「靖国、安保、大学」問題特集を出版。「式文」草案出来る。九州長丘伝道所土地購入募金。矢内昭二『ウェストミンスター信仰告白講解』聖恵授産所刊。	4・4米国M・L・キング牧師暗殺。6月小笠原諸島、米国より返還。10・23明治一〇〇年記念式典。大学紛争激しくなる。10・31北爆全面停止。
	4・30「靖国神社法案」国会に提出さる。東大入試中止。学生運動により関西学院大学など神学部封鎖。関東学院神学部廃止。新・旧両教「共同訛聖書」研究機関設立。キリスト教七大学、大学法に抗議声明。全共闘派学生、反体制運動激化する。	

一九七〇 昭和四五	二月一一日靖国神社国營反対信徒大会。（於神学校）一〇 月二〇～二三日第二十五回大会（於東京恩寵教会）議長矢内昭二。神学校校長に吉岡繁再選。「日本基督改革派教会二十年史資料」発行。大会、長老会結成。神戸改革派神学校土地、神戸市に一部売却を決定。	3・15日本万国博開会、キリスト教館建設。よど号赤軍派ハイジャック事件。東京神学大に機動隊導入。日本基督教団、正常化同盟結成。カンボジアに米軍出撃。
一九七一 昭和四六	一月一六～二〇日改革派世界教会会議太平洋地区会開催。「政治基準、會議規則」発行。「ウェストミンスター大教理問答書」を新教出版社より刊行。神学校土地売却により神学校土地、神戸市一部売却により神学校第二基金設立。（三、九〇〇万円）一〇月一九～二二日第二十六回大会（於仙台YMCア作並國際センター）議長松田一男。歴史編集委員会設置。	6・23安保条約自動延長。公明党、創価学会と政教分離。8月イスラエル、アラブ連合90日停戦合意。 9月『新改訳聖書』発刊。11月三島由紀夫自衛隊クーデター割腹事件。
	8月米国ドルショック。10月中華人民共和国、国連加盟。「新聖書大辞典」完成。10月台湾基督長老教会「台湾の将来に関する声明」を出す。	3・15日本万国博開会、キリスト教館建設。よど号赤軍派ハイジャック事件。東京神学大に機動隊導入。日本基督教団、正常化同盟結成。カンボジアに米軍出撃。

		一九七二 昭和四七	一〇月一七～二〇日第二十七回大会（於愛媛県松山イワゼキビル）議長松田一男。入船尊インドネシア宣教決定。靖国神社問題に關して「世と教会に關する委員会」を設置。
一九七三 昭和四八	五月七日靖国神社法案に対する反対声明。九月一〇日入船尊インドネシア宣教に出発。一〇月一六～一九日第二十八回大会（於兵庫県歯科医師会館）議長諏訪哲夫。三〇周年記念宣言テーマを「教会と國家についての宣言」と決定。 第二次九州開拓伝道はじまる。教師の信徒籍を、奉仕教会に置くこと決定。	1月ベトナム和平協定調印。3月日本改革教会協議会結成。8月金大中拉致、誘拐事件起る。10月第四次中東戦争勃発。12月世界石油危機。日本でも買い溜めパンツク起くる。	2月連合赤軍浅間山荘事件。5・15沖縄復帰。6月日本列島改造論。日本基督公会設立100年記念。青山学院理事会、神学科学生募集を停止。
一九七四 昭和四九	五月一二日「政教分離の侵害を監視する全国会議」発足、事務局長に西川重則長老。五月二三日「靖国神社法案廃案に關する請願書」七月二十五日第二十九回大会年度第一回臨時大会 平高事件により神学校経理混乱、「神学校対策委員会」設置。神学校再建始まる。一〇月一六日神学校長吉岡繁辞任。早川亮神学校理事辞任。一〇月一五～一八日第二十九回大会（於愛知県労働会館）議長諏訪哲夫。韓国問	5・25衆院内閣委、靖国神社法案衆議院強行採決す。參議院で廃案。米国聖公会に女性聖職者誕生。8・15三木首相終戦記念日に靖国神社参拝。	2月連合赤軍浅間山荘事件。5・15沖縄復帰。6月日本列島改造論。日本基督公会設立100年記念。青山学院理事会、神学科学生募集を停止。

一九七五 昭和五〇	題キリスト教緊急会議発足。改革派神学研修所、東京恩寵 教会に設置。
	<p>七月二十四日第三十回大会年度第一回臨時大会「神学校経理不正事件報告」を受入。神学校定款の第二回改正。政教分離侵害監視全国会議、英國エリザベス女王来日とともにない伊勢神宮への表敬のとりやめを要請。一〇月一八～二一日第三十回大会（於御殿場Y.M.C.A）議長諏訪哲夫 神学校校長に橋本龍三を選出。R.Eマカルピン帰国。靖国神社問題、慰靈表敬法案反対を声明。</p>
	<p>4・7プロテスタントに教派、力トリック東京大司教区などの代表、「靖国神社法案」に対する私たちの態度発表。9月日本キリスト教協議会（N.C.C.）、統一協会に関する見解を発表。一線を画することを表明。9・16プロテスタント・カトリック共同訳『ルカスによる福音』完成。10・17『リビングバブル』刊行。</p>

※ 改革・長老教会関連のものを太字にした。

## 年表参考文献一覧

『近代日本総合年表 第三版』岩波書店一九九一・二

『日本文化総合年表』岩波書店一九九一・四

小野静雄『日本プロテスタント教会史 上 明治大正篇』聖恵授産所出版部一九八六・二

小野静雄『日本プロテスタント教会史 下 昭和篇』聖恵授産所出版部一九八六・五

小野静雄『日本プロテスタント伝道史』聖恵授産所出版部一九八九・四

日本基督教会歴史編纂委員会『日本基督教会史年表 一九五一年～一九八〇年』一九八一・一〇

海老沢有道・大内三郎『日本キリスト教史』日本基督教団出版局一九七〇・一〇

山本秀煌『日本基督教会史』日本基督教会事務所一九二九・一〇

金田隆一『昭和日本基督教会史』一九九六・四

土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』一九八〇・七

櫻井 匡『教派別日本基督教会史』一九三三・一二

高木一雄『大正・昭和カトリック教会史』聖母の騎士社一九八五・一

藏田雅彦『天皇制と韓国キリスト教』新教出版社一九九一・三



## 統計（1946年～1975年）

## 教勢(1946~1955)

	創立時	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955
現住陪餐者会員数	323	217	283	545	1016	1389	1466	1404	1506	1560	1656
東部	194	88	110	122	130	383	245	177	181	187	212
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	129	129	173	423	886	1006	709	732	828	867	902
四国	*	*	*	*	*	*	512	495	497	506	542
受洗者数	—	12	19	110	305	385	350	278	237	223	220
東部	—	—	—	10	30	60	56	30	12	15	29
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	12	19	100	275	325	164	143	119	102	110
四国	*	*	*	*	*	*	130	105	106	106	81
成人洗礼者数	—	12	19	98	269	244	313	262	208	195	174
東部	—	—	—	10	30	—	25	12	12	18	
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	12	19	88	239	244	142	143	103	84	89
四国	*	*	*	*	*	*	117	94	93	99	67
幼児洗礼者数	—	0	0	12	36	81	37	16	29	28	46
東部	—	—	—	—	—	—	2	5	0	3	11
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	—	—	12	36	81	22	0	16	18	21
四国	*	*	*	*	*	*	13	11	13	7	14
成人告白者数	—	7	4	14	12	24	15	11	9	8	17
東部	—	—	—	—	0	—	2	2	3	2	5
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	7	4	14	12	24	3	3	5	4	7
四国	*	*	*	*	*	*	10	6	1	2	5
加入者数(*1)	—	0	0	61	79	77	—	—	98	32	
東部	—	—	—	4	5	—	—	—	41	3	
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	—	—	61	74	77	—	—	34	23	
四国	*	*	*	*	*	*	—	—	23	6	
退会者数(*1)	—	0	0	27	14	84	0	0	0	84	12
東部	—	—	—	2	—	—	—	—	—	27	3
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	—	—	25	14	84	—	—	34	6	
四国	*	*	*	*	*	*	—	—	—	23	3
朝拝出席数	174	98	152	435	819	1361	1456	1371	1314	1326	1384
東部	76	—	—	84	—	356	306	164	178	177	180
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	98	98	152	351	819	1005	668	738	752	742	778
四国	*	*	*	*	*	*	482	469	384	407	426
夕拝出席数	11	—	—	104	295	419	522	465	491	474	549
東部	—	—	—	—	—	57	54	56	72	64	62
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	11	—	—	104	295	362	256	208	244	212	274
四国	*	*	*	*	*	*	212	201	175	198	213
祈祷会出席数	0	11	42	128	285	370	242	447	394	399	415
東部	0	—	—	24	—	49	—	48	48	47	44
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	0	11	42	104	285	321	242	238	210	218	228
四国	*	*	*	*	*	*	*	*	161	136	134
日曜学校出席数	163	163	337	772	1492	2142	2731	3520	3170	3088	2669
東部	0	—	—	175	—	414	—	305	303	231	232
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	163	163	337	597	1492	2449	2027	2406	2303	2073	1755
四国	*	*	*	*	*	*	*	*	809	564	784

(\*1) 1955年までは改革派教会内の移動  
(転入・転出)も含む。

## 教勢(1946~1955)

	創立時	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955
教会数	8	11	17	20	29	31	30	33	33	31	31
東部	3	4	5	5	5	6	6	5	5	6	6
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	5	7	12	15	24	25	13	17	17	14	14
四国	*	*	*	*	*	*	11	11	11	11	11
伝道所数	0	1	10	12	6	20	19	19	12	12	17
東部	0	0	0	3	0	6	1	1	1	1	1
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	0	1	10	9	6	14	12	9	8	8	13
四国	*	*	*	*	*	*	6	9	3	3	3
教師数	9	10	14	19	20	21	28	31	34	39	41
東部	4	4	4	4	4	6	4	7	7	9	9
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	5	6	10	15	16	15	15	15	15	19	20
四国	*	*	*	*	*	*	9	8	8	11	12
引退教師数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四国	*	*	*	*	*	*	0	0	0	0	0
長老数	3	7	7	7	14	12	16	15	18	17	14
東部	1	0	4	4	2	2	4	3	6	2	2
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	2	7	3	3	12	10	8	7	9	7	6
四国	*	*	*	*	*	*	6	4	6	4	6
教師試補数	2	2	1	1	1	2	5	4	0	5	0
東部	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	2	2	1	1	1	2	0	3	3	3	0
四国	*	*	*	*	*	*	3	0	0	2	0
教師候補者免許無数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四国	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—
執事数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四国	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—
委員数	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四国	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—
教会員数	428	452	484	1032	1788	2616	2868	2693	2898	3030	2992
東部	111	135	157	235	262	641	596	327	331	361	390
中部	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
西部	317	317	327	797	1526	1975	1423	1475	1589	1646	1590
四国	*	*	*	*	*	*	849	891	978	1023	1012

データは、創立大会を除き、翌年度の大会で報告を受け承認された当該年度のもの。

1~10回は「日本キリスト改革派教会大会記録合本創立大会~第10回大会」による。

11回以降は単年度大会記録による。ただし、\*は中会未成立。空欄はデータなし。

第12回まで長老は大会出席数を参考として入力。

## 教勢(1956~1966)

	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965
現住陪餐者会員数	1705	1769	1869	1923	1970	2052	2104	2179	2228	2409
東部	238	275	314	319	329	340	333	331	353	469
中部	*	*	*	466	510	566	607	626	609	636
西部	947	976	1006	599	609	640	649	695	719	756
四国	520	518	549	539	522	506	515	527	547	548
受洗者数	180	237	212	226	209	196	206	225	231	248
東部	18	36	29	22	23	24	34	29	34	53
中部	*	*	*	64	87	76	64	67	53	60
西部	111	123	116	63	47	45	42	71	63	79
四国	51	78	67	77	52	51	66	58	81	56
成人洗礼者数	144	172	159	180	150	145	150	142	170	173
東部	14	23	29	13	19	14	24	13	24	34
中部	*	*	*	51	62	61	46	43	39	45
西部	88	92	79	50	32	29	26	44	42	51
四国	42	57	51	66	37	41	54	42	65	43
幼児洗礼者数	36	65	53	46	59	51	56	83	61	75
東部	4	13	0	9	4	10	10	16	10	19
中部	*	*	*	13	25	15	18	24	14	15
西部	23	31	37	13	15	16	16	27	21	28
四国	9	21	16	11	15	10	12	16	16	13
成人告白者数	10	7	27	17	15	25	15	15	12	17
東部	1	3	12	3	3	5	3	3	0	6
中部	*	*	*	6	3	13	3	3	3	4
西部	6	3	10	5	3	3	5	5	4	5
四国	3	1	5	3	6	4	4	4	5	2
加入者数	63	48	32	116	31	37	48	43	47	51
東部	9	15	2	7	5	6	16	6	16	21
中部	*	*	*	2	16	11	14	12	9	5
西部	39	21	25	14	9	16	14	18	18	16
四国	15	12	5	93	1	4	4	7	4	9
退会者数	22	46	26	26	40	23	56	41	32	57
東部	2	8	5	8	7	6	0	13	4	11
中部	*	*	*	9	15	7	34	13	4	12
西部	15	33	19	4	12	1	12	10	9	12
四国	5	5	2	5	6	9	10	5	15	22
朝拜出席数	1404	1434	1527	1572	1635	1635	1772	1889	2015	1958
東部	189	212	220	246	251	263	253	291	332	363
中部	*	*	*	429	486	492	525	549	587	561
西部	784	824	890	474	475	489	516	544	604	562
四国	431	398	417	423	423	391	478	505	492	472
夕拜出席数	528	536	579	586	584	585	606	603	605	585
東部	63	90	81	89	94	98	84	92	120	111
中部	*	*	*	188	175	160	169	173	151	167
西部	274	277	333	153	161	158	181	179	182	162
四国	191	169	165	156	154	169	172	159	152	145
祈祷会出席数	435	406	411	390	379	369	394	407	433	434
東部	69	48	50	65	64	58	58	66	80	90
中部	*	*	*	115	106	106	124	132	125	129
西部	231	234	241	108	107	95	104	99	118	107
四国	135	124	120	102	102	110	108	110	110	108
日曜学校出席数	2495	2345	2461	2257	1975	1822	1743	1642	1840	2198
東部	211	243	218	242	241	244	189	197	245	330
中部	*	*	*	794	756	658	669	642	721	841
西部	1716	1476	1333	525	421	352	387	396	390	480
四国	568	626	910	696	557	568	498	407	484	547

## 教勢(1956～1966)

	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965
教会数	29	29	29	32	32	32	30	32	32	34
東部	6	6	6	6	6	5	5	6	4	6
中部	*	*	*	8	8	9	9	10	10	10
西部	14	14	14	7	7	7	6	6	7	7
四国	9	9	9	11	11	11	10	10	11	11
伝道所数	20	21	23	24	26	28	32	30	33	35
東部	1	2	2	5	6	8	6	5	7	9
中部	*	*	*	8	9	8	10	9	9	9
西部	13	13	15	6	6	7	8	8	10	10
四国	6	6	6	5	5	5	8	8	7	7
教師数	47	51	54	58	57	58	59	64	61	66
東部	8	11	11	14	15	14	14	17	17	17
中部	*	*	*	14	14	14	14	15	15	16
西部	26	26	29	16	14	15	16	16	16	16
四国	13	14	14	14	14	15	15	16	13	17
引退教師数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東部	0	0	0	0	0	0	退会1	0	0	退会2
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
西部	0	0	0	除名1	退会1	0	0	0	退職1	0
四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	解任1
長老数	15	15	108	116	108	112	113	126	123	138
東部	2	4	23	27	21	21	21	26	20	24
中部	*	*	*	29	28	27	28	39	38	35
西部	6	6	55	29	33	35	37	31	35	43
四国	7	5	30	31	26	29	27	30	30	36
教師試補数	3	2	1	4	2	8	10	8	8	6
東部	2	1	1	2	0	5	6	3	3	2
中部	*	*	*	0	0	0	1	2	1	1
西部	1	1	0	2	2	2	2	1	1	3
四国	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0
教師候補者免許無数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—
西部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
執事数	—	0	118	124	129	153	155	169	157	176
東部	—	—	26	27	26	32	30	35	29	36
中部	*	*	*	28	33	38	41	52	45	47
西部	—	—	58	33	33	40	39	39	40	44
四国	—	—	34	36	37	43	45	43	43	49
委員数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—
西部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教会員数	3149	3235	3447	3519	3602	3730	3855	4022	4077	4300
東部	404	438	453	491	508	532	537	581	613	730
中部	*	*	*	978	1036	1096	1159	1212	1163	1184
西部	1717	1786	1938	973	982	1043	1075	1148	1171	1248
四国	1028	1011	1056	1077	1076	1059	1084	1081	1130	1138

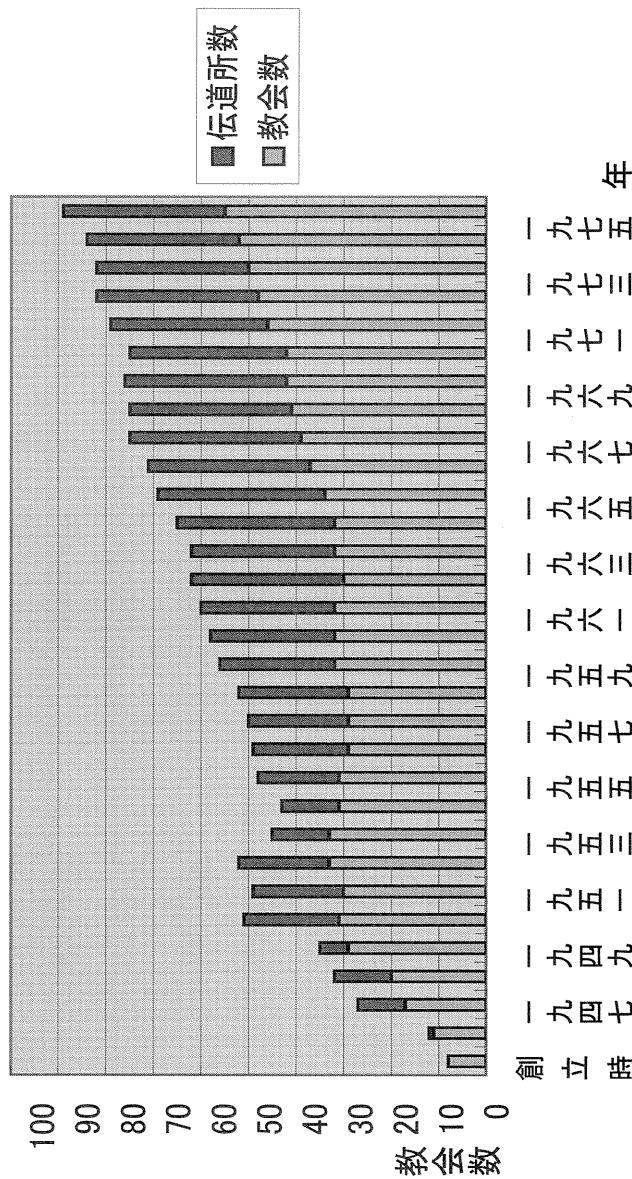
## 教勢(1966~1975)

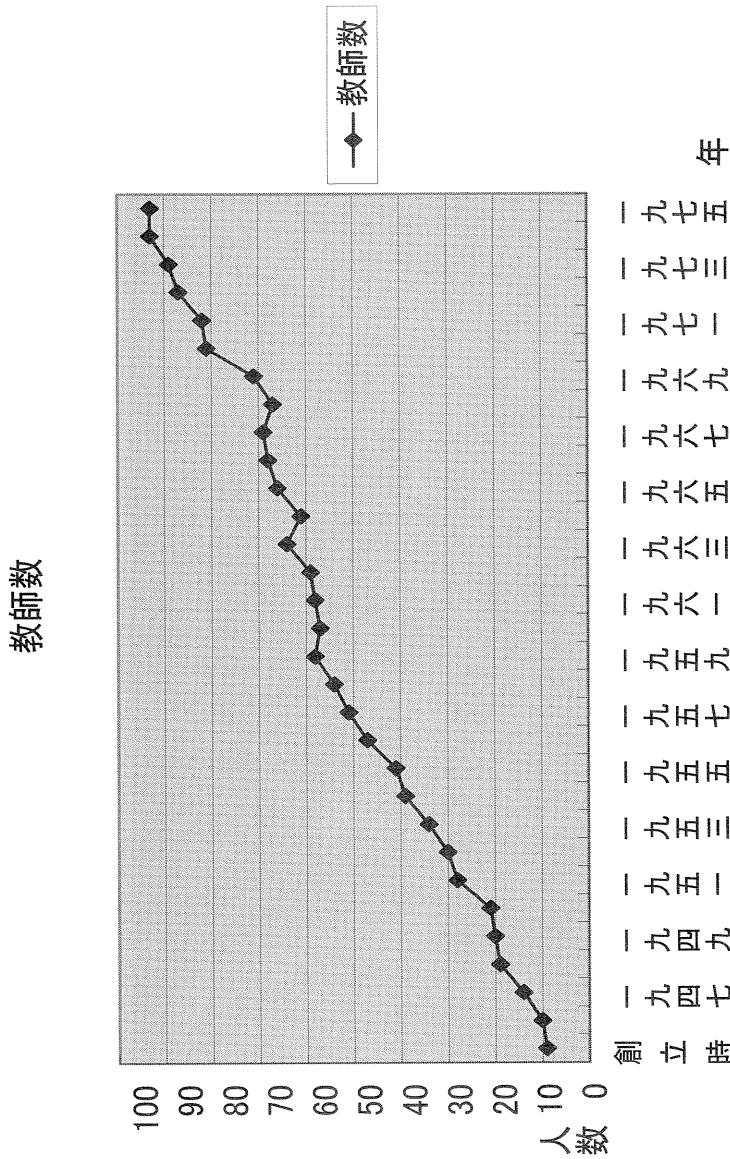
	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
現住陪餐者会員数	2530	2671	2748	2816	2850	3043	3093	3220	3292	3379
東部	494	552	634	681	691	844	861	925	955	955
中部	679	702	714	706	713	721	734	767	793	821
西部	787	836	846	853	863	896	914	920	936	986
四国	570	581	554	576	583	582	584	608	608	617
受洗者数	264	266	232	203	199	243	239	214	277	220
東部	47	47	58	62	52	72	72	74	72	64
中部	63	80	60	41	41	50	60	42	74	41
西部	81	69	60	54	64	72	60	56	74	69
四国	73	70	54	46	42	49	47	42	57	46
成人洗礼者数	186	193	151	131	124	142	135	117	165	133
東部	29	29	31	34	28	41	42	36	40	33
中部	43	54	43	22	32	25	34	27	39	24
西部	56	47	36	34	34	36	30	21	40	40
四国	58	63	41	41	30	40	29	33	46	36
幼児洗礼者数	78	73	81	75	75	101	104	97	112	87
東部	18	18	27	28	24	31	30	38	32	31
中部	20	26	17	19	9	25	26	15	35	17
西部	25	22	24	20	30	36	30	35	34	29
四国	15	7	13	8	12	9	18	9	11	10
成人告白者数	24	19	14	12	14	19	26	21	27	35
東部	2	1	3	0	3	3	4	6	8	9
中部	8	7	2	5	4	7	9	5	10	10
西部	9	5	6	2	3	6	8	4	4	9
四国	5	6	3	5	4	3	5	6	5	7
加入者数	56	53	44	57	56	61	65	60	64	88
東部	19	11	15	16	23	35	30	32	33	34
中部	9	7	12	9	5	8	10	8	10	20
西部	20	20	7	18	22	14	14	17	12	24
四国	8	15	10	14	6	4	11	3	9	10
退会者数	45	53	46	39	33	79	47	42	49	52
東部	10	11	17	12	16	29	24	13	21	22
中部	10	7	4	11	1	20	7	16	5	6
西部	15	27	20	8	7	25	13	6	15	15
四国	10	8	5	8	9	5	3	7	8	9
朝拜出席数	2212	2350	2467	2584	2631	2803	2885	2998	3204	3358
東部	440	524	551	644	661	833	861	926	977	996
中部	592	628	638	653	657	688	718	751	818	864
西部	655	673	731	748	755	739	771	768	858	936
四国	525	525	547	539	558	543	535	553	551	562
夕拝出席数	645	677	729	711	692	677	753	807	820	762
東部	125	147	156	167	178	190	215	223	219	103
中部	188	172	197	172	160	140	175	187	207	252
西部	170	179	210	213	208	200	197	214	207	222
四国	162	179	166	159	146	147	166	183	187	185
祈祷会出席数	451	488	527	541	556	599	623	674	693	729
東部	91	113	121	130	138	176	180	187	183	194
中部	139	142	159	158	153	158	157	181	195	202
西部	109	117	139	152	156	170	172	176	204	212
四国	112	116	108	101	109	95	114	130	111	121
日曜学校出席数	2273	2108	2103	2163	2043	2274	2371	2508	2482	2661
東部	467	488	462	515	491	733	728	846	797	784
中部	879	758	708	682	568	556	597	623	639	677
西部	536	487	628	671	685	708	754	743	788	919
四国	391	375	305	295	299	277	292	296	258	281

## 教勢(1966~1975)

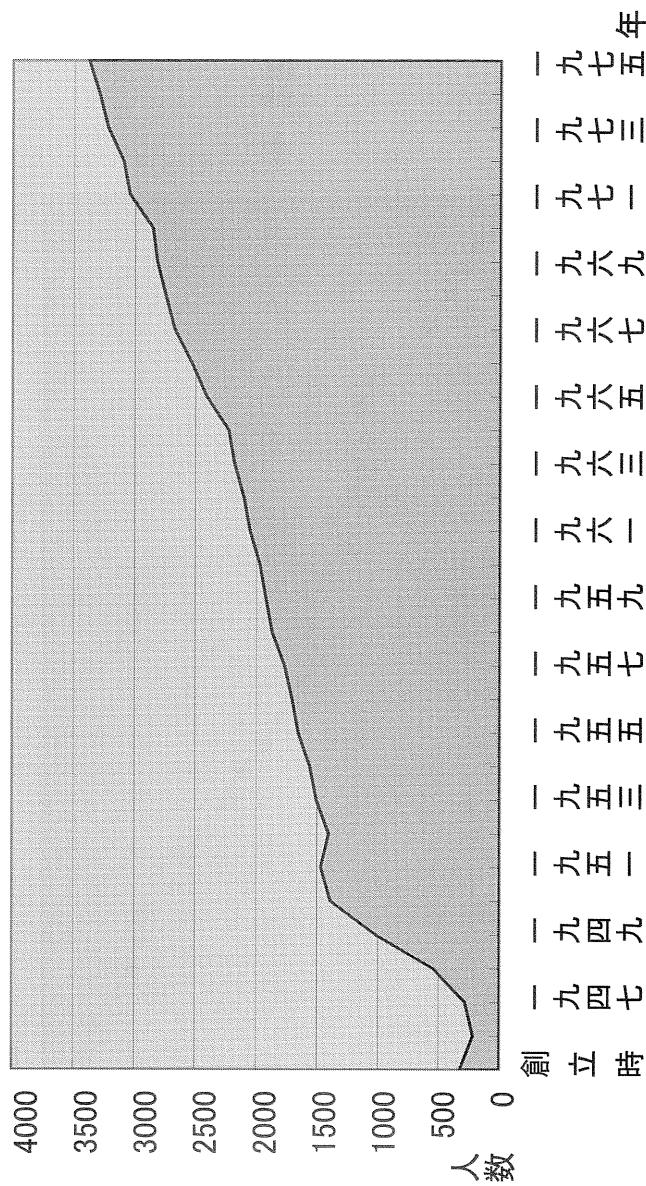
	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
教会数	37	39	41	42	42	46	48	50	52	55
東部	7	9	10	11	11	15	16	17	18	18
中部	12	13	14	14	14	14	14	14	14	14
西部	7	7	7	7	7	7	8	9	10	13
四国	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10
伝道所数	34	36	34	34	33	33	34	32	32	34
東部	10	9	9	9	9	9	9	9	8	10
中部	6	7	4	4	4	4	4	4	5	5
西部	11	12	13	14	13	13	13	11	11	10
四国	7	8	8	7	7	7	8	8	8	9
教師数	68	69	67	71	81	82	87	89	93	93
東部	19	19	20	22	28	31	32	34	36	38
中部	17	14	12	12	15	13	15	16	16	17
西部	16	19	18	20	20	21	21	21	21	20
四国	16	17	17	17	18	17	19	18	20	18
引退教師数	3	1	0	0	1	0	2	0	4	1
東部	1	0	0	0	1	0	2	除籍1	21	免職1
中部	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長老数	152	169	169	180	182	204	207	219	219	233
東部	26	32	36	42	43	60	62	71	71	72
中部	35	38	38	39	39	37	38	38	38	62
西部	51	55	55	58	58	63	63	62	62	60
四国	40	44	40	41	42	44	44	48	48	39
教師試補数	5	5	12	12	8	8	6	49	9	9
東部	3	2	2	4	5	4	3	5	5	3
中部	1	0	0	2	1	1	1	0	1	1
西部	1	3	10	6	1	2	2	10	2	4
四国	0	0	0	0	1	1	0	34	1	1
教師候補者免許無数	0	15	13	16	15	12	13	11	11	13
東部	—	6	10	8	9	7	5	4	4	9
中部	—	2	2	2	1	2	1	1	1	0
西部	—	7	1	5	5	3	4	5	5	3
四国	—	0	0	1	0	0	3	1	1	1
執事数	198	207	214	228	230	242	266	279	294	314
東部	42	41	45	54	59	71	83	84	99	99
中部	62	71	73	76	76	76	74	84	84	90
西部	41	46	46	48	45	47	60	59	59	76
四国	53	49	50	50	50	48	49	52	52	49
委員数	—	—	—	—	—	—	—	—	92	92
東部	—	—	—	—	—	—	—	—	23	20
中部	—	—	—	—	—	—	—	—	10	12
西部	—	—	—	—	—	—	—	—	32	37
四国	—	—	—	—	—	—	—	—	27	23
教会員数	3673	4800	4975	5137	5317	5653	5797	6133	6315	6389
東部	494	923	1000	1098	1173	1436	1451	1610	1680	1663
中部	679	1265	1331	1337	1354	1378	1440	1481	1546	1604
西部	1317	1374	1415	1432	1499	1560	1618	1700	1720	1806
四国	1183	1238	1229	1270	1291	1279	1288	1342	1369	1316

## 教会・伝道所数

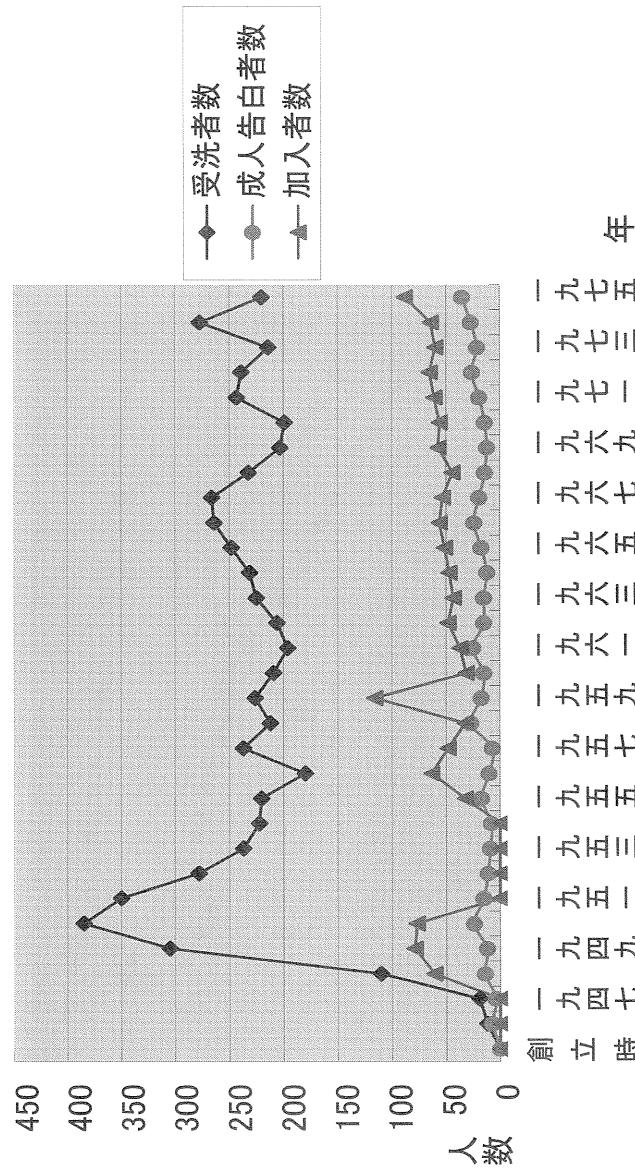




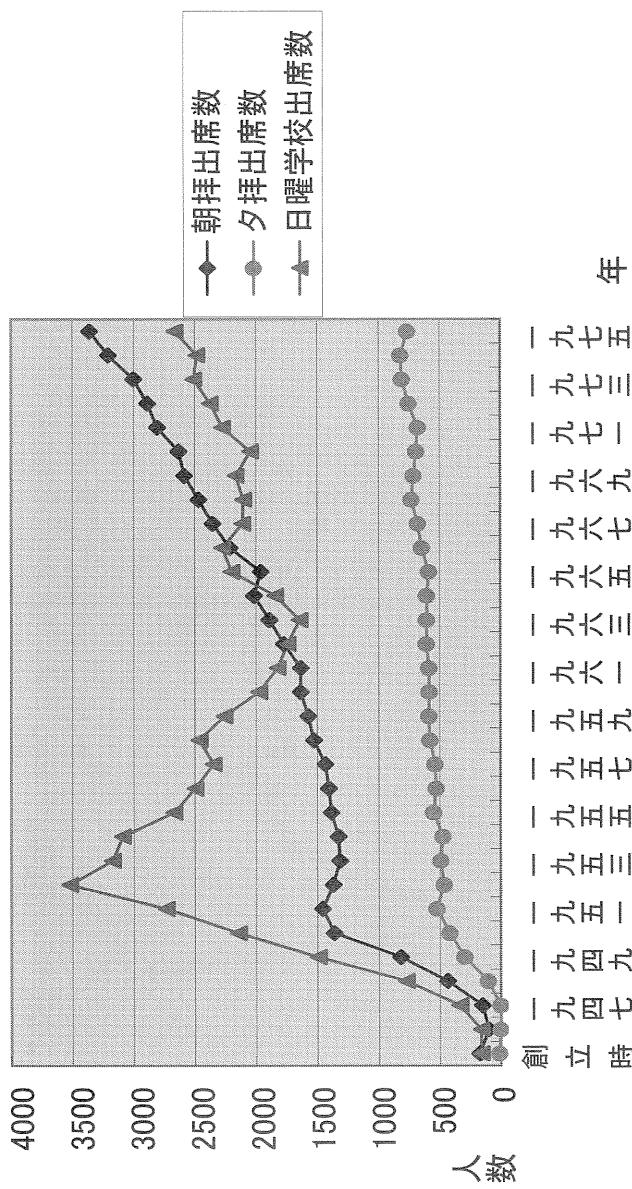
現住陪餐會員數



## 受洗・信仰告白・加入者数



## 朝拝・夕拝・日曜学校出席数



# 献 金

	1946	1947	1948	1949	1950
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
<b>東部</b>					
維持献金			114,867	181,536	672,782
礼拝献金					
その他献金					118,273
献金総額		102,272	246,465	318,100	791,055
外部献金	*	*	*	*	*
<b>中部</b>					
維持献金	*	*	*	*	*
礼拝献金	*	*	*	*	*
その他献金	*	*	*	*	*
献金総額	*	*	*	*	*
外部献金	*	*	*	*	*
<b>西部</b>					
維持献金	9,298	37,866	160,066	690,981	1,045,668
礼拝献金			129,680	442,514	622,202
その他献金					
献金総額	23,038	127,679	496,929	3,034,611	3,100,439
外部献金	*	*	*	*	*
<b>四国</b>					
維持献金	*	*	*	*	*
礼拝献金	*	*	*	*	*
その他献金	*	*	*	*	*
献金総額	*	*	*	*	*
外部献金	*	*	*	*	*
<b>合計</b>					
維持献金	9,298	37,866	274,933	872,517	1,718,450
礼拝献金	*	*	129,680	442,514	622,202
その他献金	*	*	*	*	118,273
献金総額	23,038	229,951	743,394	3,352,711	3,891,494
外部献金	*	*	*	*	*

	1956 第11回	1957 第12回	1958 第13回	1959 第14回	1960 第15回
<b>東部</b>					
維持献金	686,146	879,612	1,070,302	1,253,359	1,382,374
礼拝献金	293,791	315,588	329,382	383,294	505,385
その他献金	815,379	643,147	841,194	862,228	1,183,971
献金総額	1,795,316	1,838,347	2,337,173	2,498,881	3,071,730
外部献金	*	*	*	*	*
<b>中部</b>					
維持献金	*	*	*	1,758,856	2,067,423
礼拝献金	*	*	*	567,062	724,563
その他献金	*	*	*	1,108,674	1,492,389
献金総額	*	*	*	3,434,529	4,284,375
外部献金	*	*	*	2,948,762	3,619,312
<b>西部</b>					
維持献金	2,710,142	3,099,412	3,363,219	2,384,770	2,766,770
礼拝献金	912,253	1,048,442	1,195,016	751,214	839,914
その他献金	4,957,196	7,759,322	2,701,769	2,892,665	2,347,007
献金総額	8,579,591	11,907,176	7,260,004	6,028,649	5,953,691
外部献金	*	*	*	3,022,473	764,500
<b>四国</b>					
維持献金	1,342,526	1,488,648	1,693,172	1,789,685	1,874,970
礼拝献金	584,842	601,273	590,803	595,412	586,794
その他献金	1,796,658	514,007	316,014	611,086	536,678
献金総額	3,724,026	2,603,928	2,599,989	2,996,183	2,998,442
外部献金	*	*	*	397,500	510,000
<b>合計</b>					
維持献金	4,738,814	5,467,672	6,126,693	7,186,670	8,091,537
礼拝献金	1,790,886	1,965,303	2,115,201	2,296,982	2,656,656
その他献金	7,569,233	8,916,476	3,858,977	5,474,653	5,560,045
献金総額	14,098,933	16,349,451	12,100,871	14,958,305	16,308,238
外部献金	*	*	*	6,368,735	4,893,812

	1951 第6回	1952 第7回	1953 第8回	1954 第9回	1955 第10回
<b>東部</b>					
維持献金	455,851	390,493	410,683	540,370	653,927
礼拝献金	236,803	262,548	293,845	251,903	288,042
その他献金	231,871	191,668	360,084	440,731	380,727
献金総額	924,525	844,709	1,064,612	1,233,004	1,322,696
外部献金	*	*	*	*	*
<b>中部</b>					
維持献金	*	*	*	*	*
礼拝献金	*	*	*	*	*
その他献金	*	*	*	*	*
献金総額	*	*	*	*	*
外部献金	*	*	*	*	*
<b>西部</b>					
維持献金	985,124	1,375,098	1,799,465	2,195,740	2,419,579
礼拝献金	503,139	609,617	657,493	686,851	781,175
その他献金	1,629,923	1,877,140	2,220,063	1,831,205	2,150,454
献金総額	3,118,186	3,861,855	4,667,022	4,713,796	5,351,208
外部献金	*	*	*	*	*
<b>四国</b>					
維持献金	*	806,473	967,650	1,189,245	1,221,940
礼拝献金	*	360,385	393,153	410,319	460,376
その他献金	*	385,951	1,203,976	713,421	571,894
献金総額	*	1,552,809	2,564,779	2,312,985	2,254,210
外部献金	*	*	*	*	*
<b>合計</b>					
維持献金	1,998,223	2,672,028	3,177,798	3,925,355	4,295,446
礼拝献金	1,063,316	1,232,550	1,344,492	1,349,073	1,529,593
その他献金	2,290,569	2,454,759	3,784,124	2,985,357	3,103,075
献金総額	5,352,108	6,359,337	8,306,414	8,259,785	8,928,114
外部献金	*	*	*	*	*

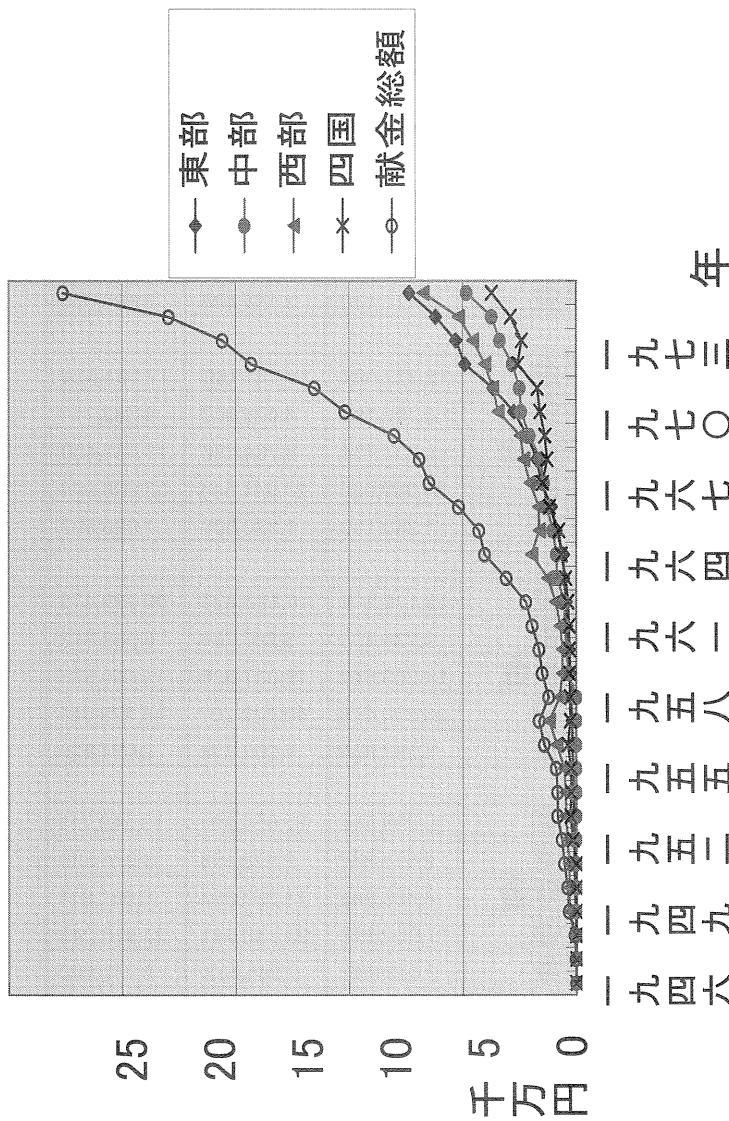
	1966	1967	1968	1969	1970
	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回
<b>東部</b>					
維持献金	5,514,481	7,348,870	8,900,865	10,869,747	13,459,242
礼拝献金	1,596,032	2,074,024	2,482,158	3,036,94	3,730,592
その他献金	3,780,763	5,834,335	5,896,683	7,578,914	10,096,843
献金総額	10,891,276	15,257,229	17,279,706	21,485,602	27,286,677
外部献金	2,528,736	4,736,634	2,148,792	1,750,382	1,613,273
<b>中部</b>					
維持献金	6,138,360	7,021,780	7,954,486	9,266,450	10,951,367
礼拝献金	1,938,837	2,171,565	2,523,570	2,935,153	3,239,612
その他献金	4,745,811	5,103,106	5,351,384	8,312,905	9,978,999
献金総額	12,823,008	14,296,451	15,829,440	20,514,508	24,169,978
外部献金	7,479,245	4,969,565	3,220,531	1,668,000	5,926,397
<b>西部</b>					
維持献金	7,480,966	8,309,290	9,728,195	11,299,892	13,146,816
礼拝献金	2,157,453	2,544,753	2,878,569	3,381,330	3,941,222
その他献金	6,672,281	9,462,356	10,432,173	9,695,579	17,265,755
献金総額	16,310,700	20,316,399	23,038,937	24,376,801	34,353,793
外部献金	9,553,472	6,221,575	18,533,616	4,062,071	3,888,410
<b>四国</b>					
維持献金	5,060,766	5,766,458	6,745,671	7,550,079	8,612,718
礼拝献金	1,456,112	1,662,991	1,935,878	2,183,514	2,546,029
その他献金	5,219,934	7,347,032	4,163,003	3,981,523	4,775,534
献金総額	11,736,812	14,776,481	12,844,552	13,715,116	15,934,281
外部献金	8,806,583	1,788,137	2,046,537	1,583,651	2,076,918
<b>合計</b>					
維持献金	24,194,573	28,446,398	33,359,217	38,986,168	46,170,143
礼拝献金	7,148,434	8,453,333	9,820,175	11,536,938	13,457,455
その他献金	20,418,789	27,746,829	25,843,243	29,568,921	42,117,131
献金総額	51,761,796	64,646,560	69,022,635	80,092,027	101,744,729
外部献金	28,368,036	17,715,911	25,949,476	9,064,104	13,504,998

	1961 第16回	1962 第17回	1963 第18回	1964 第19回	1965 第20回
<b>東部</b>					
維持献金	1,752,286	1,913,285	2,450,440	3,068,984	4,329,268
礼拝献金	532,434	586,302	762,648	915,202	1,259,221
その他献金	1,985,701	1,859,102	2,154,934	1,541,278	3,180,380
献金総額	4,270,421	4,358,689	5,368,022	5,525,464	8,768,869
外部献金	*	*	*	*	16,374,835
<b>中部</b>					
維持献金	2,503,910	3,162,767	3,610,250	4,181,215	5,178,920
礼拝献金	869,621	1,016,358	1,172,325	1,364,247	1,685,325
その他献金	1,569,928	995,899	3,517,402	3,130,964	3,395,334
献金総額	4,943,459	5,175,024	8,299,977	8,676,426	10,259,579
外部献金	4,111,003	2,332,248	4,685,018	4,073,622	4,140,852
<b>西部</b>					
維持献金	3,129,905	3,773,150	4,441,630	5,311,410	6,565,290
礼拝献金	954,176	1,178,343	1,308,012	1,522,568	1,830,242
その他献金	2,920,714	3,989,813	6,703,698	12,748,900	7,835,201
献金総額	7,004,795	8,941,306	12,453,340	19,582,878	16,230,733
外部献金	1,543,280	1,559,420	1,447,300	3,355,114	6,317,015
<b>四国</b>					
維持献金	2,008,187	2,288,502	2,654,850	3,320,389	3,911,916
礼拝献金	637,396	787,566	853,667	916,460	1,146,768
その他献金	514,733	560,419	1,126,610	2,316,550	2,547,088
献金総額	3,160,316	3,636,487	4,635,127	6,553,399	7,605,772
外部献金	1,268,500	1,370,900	1,526,062	2,365,500	6,081,420
<b>合計</b>					
維持献金	9,393,288	11,137,704	13,157,170	15,881,998	19,985,394
礼拝献金	2,993,627	3,568,569	4,096,652	4,718,477	5,921,556
その他献金	6,991,076	7,405,243	13,503,316	19,737,692	16,958,003
献金総額	19,377,991	22,111,516	30,757,138	40,338,167	42,864,953
外部献金	6,922,783	5,262,568	7,658,380	11,383,643	32,914,122

	1974	1975
	第29回	第30回
東部		
維持献金	33,757,986	40,204,183
礼拝献金	8,328,439	9,364,326
経常献金合計	61,770,930	73,493,891
援助金	2,482,400	3,711,676
会堂献金	8,398,617	12,665,730
会堂援助金	121,000	10,000
献金合計	72,772,948	89,881,297
中部		
維持献金	20,905,987	27,497,806
礼拝献金	6,008,986	7,779,332
経常献金合計	37,197,992	48,115,894
援助金	1,216,000	1,810,000
会堂献金	4,353,207	5,968,225
会堂援助金	250,000	195,375
献金合計	64,774,675	56,089,494
西部		
維持献金	25,419,810	32,249,740
礼拝献金	7,698,528	10,743,754
経常献金合計	51,699,337	67,210,878
援助金	3,153,291	1,372,000
会堂献金	9,151,047	190,800
会堂援助金	771,000	346,000
献金合計	64,774,675	80,450,478
四国		
維持献金	16,847,598	22,029,711
礼拝献金	3,969,704	4,933,563
経常献金合計	28,817,303	37,238,542
援助金	4,048,900	4,297,878
会堂献金	832,029	1,629,855
会堂援助金	78,000	120,000
献金合計	33,774,232	43,286,275
合計		
維持献金	96,931,381	102,154,700
礼拝献金	26,005,657	32,820,965
経常献金合計	179,483,562	226,067,205
援助金	10,900,591	18,085,230
会堂献金	22,734,900	20,454,610
会堂援助金	1,220,000	671,375
献金合計	214,399,054	269,707,544

	1971 第26回	1972 第27回	1973 第28回
<b>東部</b>			
維持献金	18,501,347	21,580,682	26,139,291
礼拝献金	5,077,426	5,779,928	6,972,713
その他献金	13,040,631	21,657,824	19,779,912
献金総額	36,619,404	49,018,434	52,896,317
外部献金	2,111,110	3,184,434	3,688,026
<b>中部</b>			
維持献金	12,727,004	14,747,160	17,191,824
礼拝献金	3,790,192	4,409,902	4,883,771
その他献金	8,383,734	8,784,482	11,531,459
献金総額	24,900,930	27,941,544	33,606,994
外部献金	1,260,150	1,370,500	1,685,597
<b>西部</b>			
維持献金	15,120,216	16,898,825	20,289,475
礼拝献金	4,236,405	5,285,754	6,063,813
その他献金	17,263,844	18,037,628	19,026,563
献金総額	36,620,465	40,222,207	45,379,851
外部献金	4,387,865	4,203,878	3,054,920
<b>四国</b>			
維持献金	10,038,547	11,654,391	13,549,711
礼拝献金	2,528,967	2,878,156	3,374,526
その他献金	4,495,943	11,207,894	6,991,811
献金総額	17,064,457	25,740,441	23,916,048
外部献金	2,473,000	2,945,118	2,743,200
<b>合計</b>			
維持献金	56,386,114	64,881,058	77,170,301
礼拝献金	15,632,990	18,353,740	21,294,823
その他献金	43,184,152	59,687,828	57,329,745
献金総額	115,205,256	142,922,626	155,799,210
外部献金	10,232,125	11,704,412	11,171,743

## 献金推移



日本基督改革派教会史—途上にある教会—  
付録（年表・統計）

二〇〇七年十月 発行

定価（本体三〇〇円＋税）

発売者

日本キリスト改革派教会

歴史資料編纂委員会

（福津省一・吉田謙・大田正紀）

発売元

聖恵授産所出版部

〒729-2326

広島県竹原市忠海中町三丁目六番一号

電話 ○八四六一二六一〇〇二

FAX ○八四六一二六一三三〇

振替 ○一三一〇・二・二六二五五

印 刷

聖恵授産所

ISBN 4-88077-082-5 亂丁・落丁本は発売元にてお取替えします。

